

Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 2.2 ユーザーズガイド



メモ、注意、警告



メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。



警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2014 Dell Inc. 無断転載を禁じます。 この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell[®]、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2014 - 03

Rev. A00

目次

1 はじめに.....	7
本リリースの新機能.....	7
既存の機能と機能性.....	8
対応オペレーティングシステム.....	10
対応 Microsoft .NET のバージョン.....	10
対応ターゲットシステム.....	10
2 使用事例シナリオ.....	12
共通の前提条件.....	12
システムの BIOS 設定プロファイルの編集およびエクスポート.....	12
システムの RAID プロファイルの作成、編集、および保存.....	13
作業を開始する前に.....	13
ワークフロー.....	13
ファームウェアインベントリの比較とアップデート.....	13
作業を開始する前に.....	13
ワークフロー.....	13
コレクションへのオペレーティングシステムの導入.....	14
作業を開始する前に.....	14
ワークフロー.....	14
iDRAC vFlash カードまたはネットワーク共有へのサーバープロファイルのエクスポート.....	15
作業を開始する前に.....	15
作業を開始する前に.....	15
ワークフロー.....	15
iDRAC vFlash カードまたはネットワーク共有からのサーバープロファイルのインポート.....	16
作業を開始する前に.....	16
作業を開始する前に.....	16
ワークフロー.....	16
Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート.....	17
作業を開始する前に.....	17
作業を開始する前に.....	17
ワークフロー.....	17
NIC または CNA プロファイルでの作業.....	18
作業を開始する前に.....	18
ワークフロー.....	18
3 Dell Lifecycle Controller Integration の使用.....	19
Dell Connection License Manager を使用した DLCI ライセンス付与.....	19
Dell Connections License Manager での Dell Lifecycle Controller Integration の設定.....	20

ターゲットシステムの設定.....	20
CSIOR を以前のサーバー世代で有効にするには、次の手順を実行します。.....	21
PowerEdge 12G サーバーで CSIOR を有効にするには、次の手順を実行します。.....	21
自動検出とハンドシェイク.....	21
タスクシーケンスへのドライバの適用.....	21
Lifecycle Controller からのドライバの適用.....	21
ConfigMgr リポジトリからのドライバの適用.....	22
予備ステップの条件の表示.....	22
タスクシーケンスメディア（ブータブル ISO）の作成.....	23
System Viewer ユーティリティ.....	23
設定ユーティリティ.....	24
Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動.....	25
Task Viewer からの Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動.....	25
Task Viewer.....	25
Dell Lifecycle Controller Integration を使用して実行できるその他のタスク.....	26
セキュリティの設定.....	26
自動検出のための Integrated Dell Remote Access Controller での Dell 工場出荷時発行のクライ アント証明書の検証.....	26
自動検出のためのシステムの事前承認.....	27
Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって使用される管理資格情報 の変更.....	27
グラフィカルユーザーインターフェースの使用.....	27
Array Builder の使用.....	27

4 設定ユーティリティの使用.....33

Lifecycle Controller 起動メディアの作成.....	33
Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所の設定.....	34
ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入.....	34
オペレーティングシステムの展開.....	35
ハードウェア設定および OS 導入ワークフロー.....	36
OS 導入中のファームウェアのアップデート.....	38
OS 導入中のハードウェアの設定.....	39
RAID の設定.....	39
コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用.....	39
コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用.....	40
コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート.....	41
ハードウェアインベントリの表示.....	42
Lifecycle Controller との通信の検証.....	43
Lifecycle Controller の資格情報の変更.....	44
ConfigMgr データベースの Lifecycle Controller の資格情報の変更.....	44
コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート.....	45
コレクションのプラットフォーム復元.....	45

コレクション内のシステムプロファイルのエクスポート.....	46
コレクション内のシステムプロファイルのインポート.....	46
コレクションの部品交換プロパティの設定.....	47
NIC または CNA プロファイルのコレクション内システムとの比較.....	47
5 サーバーのインポートユーティリティの使用.....	49
Dell サーバーのインポート.....	49
ライセンスの取得.....	50
システム変数のインポート.....	51
6 System Viewer ユーティリティの使用.....	53
BIOS 設定の表示と編集.....	53
新規プロファイルの作成.....	54
既存のプロファイルの編集.....	54
新しい属性の追加.....	54
既存の BIOS 属性の編集.....	55
BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序の変更.....	55
RAID の表示と設定.....	55
システム用 iDRAC プロファイルの設定.....	55
Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成.....	55
Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの編集.....	56
システムの NIC および CNA の設定.....	57
NIC または CNA プロファイルの作成.....	57
コレクションのスキャン.....	58
アダプタの設定.....	58
NIC および iSCSI パラメータの設定.....	59
NIC または CNA プロファイルの編集.....	60
ファームウェアインベントリの比較とアップデート.....	60
ハードウェア構成プロファイルの比較.....	61
Lifecycle Controller ログの表示.....	62
最新のメッセージレジストリのダウンロードおよびアップデート.....	63
システムのハードウェアインベントリの表示.....	64
システムのプラットフォーム復元.....	64
システムプロファイルのエクスポートまたはインポートの前提条件.....	64
システムプロファイルのエクスポート.....	64
システムプロファイルのインポート.....	66
システムの部品交換プロパティの設定.....	67
7 トラブルシューティング.....	69
IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定.....	69
IIS 7.0 または IIS 7.5 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定.....	69
Dell 自動検出ネットワークセットアップ仕様.....	70

アップグレードまたは修正の問題.....	70
Lifecycle Controller ログの表示およびエクスポートのトラブルシューティング	70
問題と解決策.....	71
問題 1	71
問題 2.....	71
問題 3.....	71
問題 4.....	71
問題 5.....	71
問題 6.....	71
問題 7.....	72
問題 8.....	72
問題 9.....	72
問題 10.....	72
問題 11.....	72
問題 12.....	73
問題 13.....	73
問題 14.....	73
問題 15.....	73
問題 16.....	73
問題 17.....	74
問題 18.....	74
問題 19.....	74
問題 20.....	74
問題 21.....	74
問題 22.....	74
問題 23.....	75
Dell Connections License Manager 状態メッセージ.....	75
8 関連文書およびリソース.....	78
テクニカルサポートを受けるには.....	78

はじめに

Microsoft System Center 2007 Configuration Manager および Microsoft System Center 2012 Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) によって、管理者は Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) の一部として使用可能な Dell Lifecycle Controller の Remote Enablement 機能を活用することができます。

本書にある Configuration Manager 2012 の使用は、次の製品に関連するものです。

- Microsoft System Center 2012 R2 Configuration Manager
- Microsoft System Center 2012 SP1 Configuration Manager
- Microsoft System Center 2012 Configuration Manager

 **メモ:** 本書には、Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 2.2 のインストールに必要な前提条件およびサポートされているソフトウェアについての情報が記載されています。Microsoft System Center Configuration Manager 用 DLCI の本バージョンを、そのリリース日から長期間経過した後でインストールする場合は、dell.com/support/manuals で本書のアップデートバージョンの有無をチェックしてください。

高レベルの Remote Enablement 機能の構成内容は次のとおりです。

- 自動検出
- ハードウェア設定
- ファームウェアの比較およびアップデート
- 個別の Dell システムまたは Dell システムのコレクションのためのオペレーティングシステムのリモート導入

本リリースの新機能

本リリースの Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration では、次のサポートが追加されます。

表 1. 新しい機能/サポートおよび機能性

新しいサポート	機能性
オペレーティングシステムの展開	以下のバージョンの Windows および Windows 以外のオペレーティングシステムを導入できます。 • Windows オペレーティングシステム - System Center 2012 Configuration Manager R2 搭載の Windows Server 2012 R2。 • Windows 以外のオペレーティングシステム - Red Hat Enterprise Linux Verison 6.5、VMware ESXi 5.1 U2 HDD (Configuration Manager から DLCI を使用)。
オペレーティングシステムのサポート : Microsoft Windows Server 2012 R2 および Windows 8.1	DLCI は Microsoft Windows Server 2012 R2 および Windows 8.1 でのインストールが可能です。
Lifecycle Controller 2 の DLCI サポート	Lifecycle Controller 2 バージョン 1.4.0.128 から Dell Lifecycle Controller Integration を使用して Dell PowerEdge 12G サーバーを設定することができます。

新しいサポート	機能性
Lifecycle Controller の DLCI サポート	Dell PowerEdge 12G サーバーでは、Dell Lifecycle Controller Integration の旧バージョンの全機能がサポートされます。 Lifecycle Controller バージョン 1.6 から Dell Lifecycle Controller Integration を使用して Dell PowerEdge 11G サーバーを設定することができます。Dell PowerEdge 11G サーバーでは、Dell Lifecycle Controller Integration の旧バージョンの全機能がサポートされます。

既存の機能と機能性

表 2. 機能と機能性

機能	機能性
PowerEdge 12G サーバーと PowerEdge 11G サーバーを設定し、オペレーティングシステムをインストールします。	PowerEdge 12G または 11G サーバーは、Dell Lifecycle Controller Integration で Lifecycle Controller を使用して設定できます。12G または 11G サーバーでは、Dell Lifecycle Controller Integration の以前のバージョンのすべての機能がサポートされています。
Dell Lifecycle Controller Integration をインストールおよび設定する単一のインストーラ	この単一のインストーラを使用し、システムに存在する Configuration Manager のバージョンに基づいて DLCI 2.2 を環境（Configuration Manager 2007 または Configuration Manager 2012）にインストールすることができます。DLCI 2.1 が存在する場合は、インストーラがアップグレードを開始します。インストーラは、サーバーにインストールされた Configuration Manager バージョンとそのコンポーネントに基づいて適切なコンポーネントを導入します。
Dell Provisioning Server の自動設定	非管理者ユーザーアカウントを使用して Dell Provisioning Server を自動的に設定できます。インストール中に、 Automatically configure Dell Provisioning Server user permissions （Dell Provisioning Server のユーザー権限を自動的に設定する）を選択します。
プラットフォームの復元	システムまたはコレクション用のプラットフォームの復元に関する次のようなタスクを実行することができます。 - システムプロファイルを外部の共有 /vFlash にエクスポートする。 - 外部の共有 /vFlash から保存済みシステムプロファイルをインポートする。 - システムまたはコレクションの部品交換プロパティを設定する。 詳細については、「システムのプラットフォーム復元」と「コレクションのプラットフォーム復元」を参照してください。
Lifecycle Controller ログの表示およびエクスポート	システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを読み取り可能な形式で表示し、.CSV ファイルに保存またはエクスポートできます。詳細については、「 Lifecycle Controller ログの表示 」と「 コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート 」を参照してください。

機能	機能性
ネットワークインタフェースカード (NIC) および統合型ネットワークアダプタ (CNA) の設定	システムの特定の NIC または CNA に異なる属性を設定し、それらをプロファイルに保存することができます。 保存されたプロファイルは、オペレーティングシステムを導入する際にワークフローの一環としてコレクションに適用できます。 また、適用された NIC/CNA プロファイルをシステムの NIC/CNA 設定と比較して、比較レポートを生成することもできます。 詳細については、次を参照してください。 • システムの NIC および CNA の設定 • コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用 • NIC または CNA プロファイルとコレクション内システムとの比較
システムまたはコレクション用 Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定	システム用に Integrated Dell Remote Access Controller 設定を定義して、システムのハードウェア設定プロファイルの一部として保存することができます。 保存されたプロファイルは、オペレーティングシステムを導入する際にワークフローの一環としてコレクションに適用できます。 詳細については、「システムへの iDRAC プロファイルの設定」を参照してください。
ファームウェアのアップデートのための Dell FTP への接続	FTP サイトに接続して、システムまたはコレクション用のファームウェアアップデートをダウンロードできるようになりました。また、コレクション用のファームウェアアップデートをスケジュールすることもできます。 詳細については、次を参照してください。 • ファームウェアインベントリの比較とアップデート • コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート
Dell サーバーとシステム変数のインポート	Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって自動検出されない Dell サーバーをインポートできます。インポートされたサーバーは、すべての Dell Lifecycle Controller サーバーの下に表示されます。Dell Lifecycle Controller Integration ユーティリティを使用すると、サーバー上でさまざまなアクティビティを実行できます。 また、.CSV ファイルにあるシステム変数を Configuration Manager コンソールのコレクション内にあるシステムにインポートすることもできます。 詳細については、「サーバーのインポートユーティリティの使用」を参照してください。
認証のための Active Directory 資格情報を使用した iDRAC へのアクセス	Active Directory の資格情報を提供して iDRAC で認証を受けることができます。
ファームウェアアップデートのスケジュール	ファームウェアアップデートをスケジュールすることができます。詳細については、「ファームウェアインベントリの比較とアップデート」を参照してください。

機能	機能性
認証局 (CA) およびコモンネーム (CN) チェックの設定 自動検出とハンドシェイク	Dell Lifecycle Controller Integration のターゲットとの通信のために CA および CN チェックを設定できます。 この機能を使用すると、ベアメタルシステム上の iDRAC がプロビジョニングサービスの場所を特定し、サイトサーバーとの通信を確立できます。詳細については、「 自動検出とハンドシェイク 」を参照してください。
System Viewer ユーティリティ	この機能を使用すると、Dell Lifecycle Controller Integration の Remote Enablement 機能を使用して、個々のシステムを設定できます。詳細については、「 System Viewer ユーティリティの使用 」を参照してください。
設定ユーティリティ	この機能を使用すると、Lifecycle Controller の Remote Enablement 機能を使用して、システムのコレクションを設定できます。詳細については、「 設定ユーティリティの使用 」を参照してください。
iDRAC コンソールの起動	この機能を使用すると、 Task Viewer と、Dell PowerEdge 11G または 12G システムを含むコレクション内のシステムから iDRAC コンソールを起動できます。詳細については、「 Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動 」を参照してください。
Task Viewer	この機能を使用すると、Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって処理されるタスクのステータスを追跡できます。詳細については、「 Task Viewer 」を参照してください。

対応オペレーティングシステム

対応オペレーティングシステムについては、dell.com/support/manuals で『Dell Lifecycle Controller Integration for Microsoft System Center Configuration Manager Version 2.2 Installation Guide』（Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 2.2 インストールガイド）を参照してください。

対応 Microsoft .NET のバージョン

対応する Microsoft .NET バージョンについては、dell.com/manuals/support で『Dell Lifecycle Controller Integration for Microsoft System Center Configuration Manager Version 2.2 Installation Guide』（Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 2.2 インストールガイド）を参照してください。

対応ターゲットシステム

対応ターゲットシステムと、ターゲットシステムに導入できるオペレーティングシステム（Windows のみ）のリストについては、dell.com/support/manuals で入手可能な『Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled- Supported Dell Systems and Operating Systems matrix』（Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled 対応 Dell システムおよびオペレーティングシステムマトリックス）を参照してください。マニュアルページで **Software and Security**（ソフトウェアおよびセキュリティ）→ **Enterprise System Management**（エンタープライズシステム管理）→ **OpenManage Software**（OpenManage ソフトウェア）をクリックします。該当する OpenManage リリースバージョンを選択し、適切なリンクをクリックします。Dell System Software Support Matrix (Dell システムソフトウェアサポートマトリッ

クス) → **Dell System Software Support Matrix** (Dell システムソフトウェアサポートマトリックス) → **View** (表示) → **Supported Dell Systems and Operating Systems** (サポートされる Dell システムおよびオペレーティングシステム) をクリックします。サポートマトリックスで、**Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled** でサポートされるターゲットシステムとオペレーティングシステムを参照します。

使用事例シナリオ

本項では、Microsoft System Center Configuration Manager (ConfigMgr) 用 Dell Lifecycle Controller Integration で実行できる一般的な使用事例とタスクについて説明します。

共通の前提条件

ユーザーシナリオの作業を始める前に、次の前提条件を満たすことが推奨されます。

- Configuration Manager 2012 では、システムが **Assets and Compliance (資産およびコンプライアンス)** → **Devices (デバイス)** → **All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー)** で検出され、存在していることを確認してください。詳細については、「[自動検出とハンドシェイク](#)」を参照してください。
- Configuration Manager 2007 では、システムが **Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections (コレクション)** → **All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー)** で検出され、存在していることを確認してください。詳細については、「[自動検出とハンドシェイク](#)」を参照してください。
- Dell Connections License Manager は、Dell Lifecycle Controller Integration とともにインストールおよび設定されます。詳細については、「[Dell Connection License Manager を使用した DLCI ライセンス付与](#)」と「[Dell Connections License Manager で Dell Lifecycle Controller Integration を設定する](#)」を参照してください。
- BIOS プロファイルを編集してエクスポートするシステムに最新の BIOS バージョンをインストールします。
- システムに Lifecycle Controller の最新バージョンをインストールします。
- システムに Integrated Dell Remote Access Controller ファームウェアの最新バージョンをインストールします。

システムの BIOS 設定プロファイルの編集およびエクスポート

システムの BIOS 設定をプロファイルとして編集およびエクスポートして、Configuration Manager コンソールでオペレーティングシステムをシステムのコレクションに導入するときにその設定を適用することができます。

作業を開始する前に

詳細については、「[共通の前提条件](#)」を参照してください。

ワークフロー

1. 特定のシステムの Configuration Manager コンソールで **System Viewer** ユーティリティを起動します。詳細については、「[System Viewer ユーティリティ](#)」を参照してください。
2. **System Viewer** ユーティリティで **BIOS Configuration (BIOS 設定)** を選択して、システムの BIOS 設定をロードします。詳細については、「[BIOS の表示と設定](#)」を参照してください。
3. 新規プロファイルを作成するか、既存のプロファイルに変更を加えます。詳細については、「[新規プロファイルの作成](#)」または「[既存のプロファイルの編集](#)」を参照してください。
4. プロファイルの属性を追加、編集、またはアップデートします。詳細については、「[新しい属性の追加](#)」と「[既存の BIOS 属性の編集](#)」を参照してください。
5. (オプション) BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序を変更します。詳細については、「[BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序の変更](#)」を参照してください。

6. プロファイルを .XML ファイルとしてローカルシステムの任意のフォルダに保存します。

システムの RAID プロファイルの作成、編集、および保存

システムの RAID プロファイルを作成、編集、および保存し、**Configuration Manager** コンソールでシステムのコレクションにオペレーティングシステムを導入する場合に、そのプロファイルを適用できます。

作業を開始する前に

- [共通の前提条件](#)
- ローカルキー管理対応の RAID コントローラおよびファームウェア

ワークフロー

1. 特定のシステムの **Configuration Manager** コンソールで **System Viewer** ユーティリティを起動します。詳細については、「[System Viewer ユーティリティ](#)」を参照してください。
2. **System Viewer** ユーティリティで **RAID Configuration** (RIAD 設定) を選択して、システムの RAID 設定をロードします。詳細については、「[RAID の表示と設定](#)」を参照してください。
3. **Array Builder** を起動して RAID プロファイルを作成します。詳細については、「[Array Builder を使用した RAID プロファイルの作成](#)」を参照してください。
4. (オプション) 既存プロファイルをインポートおよび編集します。詳細については、「[プロファイルのインポート](#)」を参照してください。
5. 新規作成された RIAD プロファイルを .XML ファイルとして、ローカルシステムの任意のフォルダに保存します。

ファームウェアインベントリの比較とアップデート

Configuration Manager 用 DLCI を使用して単体システムまたはシステムのコレクションのファームウェアインベントリを比較およびアップデートできます。ファームウェアインベントリを、特定のインベントリプロファイル、Dell FTP サイト、または **Repository Manager** によって作成された PDK カタログと比較できます。

作業を開始する前に

- [共通の前提条件](#)
- プラグイン導入キット (PDK) カタログがある **Common Internet File System (CIFS)** 共有、または Dell FTP サイト (<ftp.dell.com>) にアクセスできることを確認します。
- 既存プロファイルと比較するには、ハードウェアインベントリプロファイルを作成します。詳細については、「[新規プロファイルの作成](#)」を参照してください。

ワークフロー

1. 単体ターゲットシステムのファームウェアインベントリを比較およびアップデートするには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションのファームウェアインベントリを比較およびアップデートするには、**Config Utility** (設定ユーティリティ) を起動します。詳細については、「[System Viewer ユーティリティ](#)」または「[設定ユーティリティ](#)」を参照してください。
2. **System Viewer** ユーティリティまたは **Config Utility** (設定ユーティリティ) から **Firmware Inventory, Compare, and Update** (ファームウェアインベントリ、比較およびアップデート) を選択します。
3. 単体システムについては、「[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)」を参照してください。
4. コレクションについては、「[コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート](#)」を参照してください。

コレクションへのオペレーティングシステムの導入

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用して、Configuration Manager コンソールでシステムのコレクションにオペレーティングシステムを導入できます。

作業を開始する前に

- 共通の前提条件
- Dell Server Deployment Pack バージョン 2.1 をプラグインとして使用可能な最新サービスパックと共にインストールしてから、Dell Server Deployment Pack を使用してタスクシーケンスを作成し、Lifecycle Controller からドライバを適用します。詳細については、「[Lifecycle Controller からのドライバの適用](#)」を参照してください。
- Configuration Manager レポジトリからドライバを適用します。詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な Dell Server Deployment Pack のマニュアルを参照してください。
- Integrated Dell Remote Access Controller でシステムコレクション用のタスクシーケンス起動メディアを作成します（タスクシーケンス ISO から起動します）。詳細については、「[タスクシーケンスメディア（ブータブル ISO）の作成](#)」を参照してください。
- Windows 以外のオペレーティングシステム導入タスクにおける前提条件については、『Dell Lifecycle Controller Integration for Microsoft System Center Configuration Manager Version 2.2 Installation Guide』（Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 2.2 インストールガイド）の「ソフトウェアの前提条件と要件」を参照してください。

ワークフロー

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - a. Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections**（デバイスコレクション）に移動します。
 - b. Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータ管理）→ **Collections** を選択します。
Managed Dell Lifecycle Controllers (OS Unknown)（管理対象 Dell Lifecycle Controllers (OS 不明)）を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller Launch 設定ユーティリティ**（Dell Lifecycle Controller 起動設定ユーティリティ）を選択します。
2. **Dell Lifecycle Controller Launch Config Utility**（Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ）で、**Deploy Operating System**（オペレーティングシステムの導入）を選択します。
3. Dell レポジトリからファームウェアをアップデートします。詳細については、「[OS 導入中のファームウェアのアップデート](#)」を参照してください。
4. BIOS/NIC プロファイルを設定または編集します。詳細については、「[OS 導入中のハードウェアの設定](#)」を参照してください。
5. RAID プロファイルを設定または編集します。詳細については、「[RAID の設定](#)」を参照してください。
6. コレクションに NIC/CNA プロファイルを適用します。詳細については、「[コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用](#)」を参照してください。
7. Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルをコレクションに適用します。詳細については、「[コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用](#)」を参照してください。
8. オペレーティングシステムを導入し、お好きなメディアで起動します。詳細については、「[ハードウェア設定および OS の導入ワークフロー](#)」の手順 15 を参照してください。

iDRAC vFlash カードまたはネットワーク共有へのサーバープロファイルのエクスポート

サーバープロファイルを iDRAC vFlash カード、外部ソース、またはネットワーク共有へエクスポートすることにより、サーバープロファイルを単体システムまたはシステムのコレクションのイメージファイルとしてバックアップすることができます。

作業を開始する前に

- [共通の前提条件](#)
- 有効な 7 桁のサービスタグ付きのターゲットシステム。
- iDRAC vFlash カード：
 - ライセンスとして取り付け済み、有効化済み、および初期化済み。
 -  **メモ:** iDRAC vFlash カードは、PowerEdge 11G サーバーにのみ必要です。PowerEdge 12G サーバーには、エンタープライズライセンスが必要です。
 - 少なくとも 384 MB の空き容量が利用可能。
- ネットワーク共有：
 - ネットワーク共有を持つシステムとの通信を行うための、Integrated Dell Remote Access Controller に関するパーミッションとファイアウォール設定が行われている。
 - 少なくとも 384 MB の空き容量が利用可能。
- ターゲットシステムの Integrated Dell Remote Access Controller に管理者権限が設定されている。

作業を開始する前に

単体システムまたはコレクションのシステムプロファイルのエクスポートを開始する前に、次のことを確認してください。

- ファームウェアのアップデート、オペレーティングシステムの導入、ファームウェアの設定などの操作を実行しないようにしてください。
- Lifecycle Controller を使用してオペレーティングシステムを導入した後は、Lifecycle Controller のステータスがオペレーティングシステムのインストールを示さないため、OEM ドライブ (OEMDRV) が 18 時間オープン状態になります。オペレーティングシステムの導入後にアップデート、設定、復元などの操作を実行する必要がある場合は、OEMDRV パーティションを削除します。パーティションを削除するには、Integrated Dell Remote Access Controller をリセットするか、システムサービスをキャンセルします。
iDRAC のリセットまたはシステムサービスのキャンセルに関する詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Lifecycle Controller Remote Services User's Guide』(Dell Lifecycle Controller Remote Services ユーザーズガイド) を参照してください。
- バックアップをスケジュールした場合は、ターゲットシステムで BIOS アップデートや RAID 設定などの他のリモートサービスジョブをスケジュールしないでください。
- エクスポートの実行中およびエクスポート後に、バックアップイメージファイルが改ざんされることがないようにしてください。

ワークフロー

1. 単体ターゲットシステムのシステムプロファイルのエクスポートするには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションのシステムプロファイルのエクスポートするには、**Config**

Utility（設定ユーティリティ）を起動します。詳細については、「[System Viewer ユーティリティ](#)」または「[設定ユーティリティ](#)」を参照してください。

2. **System Viewer** ユーティリティまたは **Config Utility**（設定ユーティリティ）で **Platform Restore**（プラットフォームの復元）を選択します。
3. 単体システムについては、「[システムプロファイルのエクスポート](#)」を参照してください。
4. コレクションについては、「[コレクション内のシステムプロファイルのエクスポート](#)」を参照してください。

iDRAC vFlash カードまたはネットワーク共有からのサーバープロファイルのインポート

Configuration Manager 用 DLCI を使用して、iDRAC vFlash カードまたはネットワーク共有から、単体システムまたはシステムのコレクションのシステムプロファイルのバックアップを復元することができます。

作業を開始する前に

- [共通の前提条件](#)
- サーバーのサービスタグがバックアップ時と同じか空のいずれかです。
- iDRAC vFlash カード：
 - ライセンスとして取り付け済みで、SRVCNF パーティションが有効になっています。Lifecycle Controller で、バックアップ中に、バックアップイメージファイルを格納する、ラベル名が SRVCNF のパーティションが vFlash SD カードで自動的に作成されます。ラベル名が SRVCNF のパーティションがすでに存在する場合は、上書きされます。詳細については、dell.com/support/manuals にある Lifecycle Controller のマニュアルを参照してください。
 - 使用可能な空き容量が最低 384 MB ある。
- iDRAC vFlash カードからインポートする場合は、カードが取り付け済みであり、SRVCNF パーティションにバックアップイメージがあることを確認してください。このイメージのプラットフォームは、インポートしているプラットフォームと同じです。
- ネットワーク共有からインポートを行う場合は、バックアップイメージファイルが保存されているネットワーク共有にアクセス可能であることを確認してください。
- インポートを実行する前にマザーボードを交換する場合は、マザーボードに最新の iDRAC が取り付けられ、最新の BIOS がインストールされていることを確認してください。

作業を開始する前に

システムまたはコレクションへのバックアップファイルのインポートを開始する前に、次のことを確認してください。

- バックアップイメージファイルにユーザーデータが存在しません。バックアップイメージファイルで既存の設定を上書きする場合、ユーザーデータは復元されません。
- インポート実行中に、ファームウェアのアップデート、オペレーティングシステムの導入、ファームウェアの設定などの操作が実行されていません。
- Lifecycle Controller を使用してオペレーティングシステムを導入した後は、OEMDRV が 18 時間オープン状態になります。オペレーティングシステムの導入後にアップデート、設定、インポートなどの操作を実行する必要がある場合は、OEMDRV パーティションを削除してください。このパーティションを削除するには、iDRAC をリセットするか、**System Services** をキャンセルします。

ワークフロー

1. 単体ターゲットシステムのシステムプロファイルをインポートするには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションのシステムプロファイルをインポートするには、**設定ユーテ**

イリティを起動します。詳細については、「[System Viewer ユーティリティ](#)」または「[設定ユーティリティ](#)」を参照してください。

2. **System Viewer** ユーティリティまたは **設定ユーティリティ** で **Platform Restore** (プラットフォームの復元) を選択します。
3. 単体システムについては、「[システムプロファイルのインポート](#)」を参照してください。
4. コレクションについては、「[コレクション内のシステムプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート

単体システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを表示したり、これらのログをネットワーク共有フォルダに .CSV 形式でエクスポートしたりすることができます。

作業を開始する前に

- [共通の前提条件](#)
- ネットワーク共有：
 - Integrated Dell Remote Access Controller がネットワーク共有にアクセスできる。
 - Integrated Dell Remote Access Controller に、ネットワーク共有への情報の書き込みに必要なパーミッションがある。
 - 少なくとも 384 MB の空き容量が利用可能。
- 一度に表示するログファイルの数を `DLCSysview.exe.config` または `DLCCfgUtility.exe.config` ファイルで設定します。詳細については、「[Lifecycle Controller ログの表示](#)」を参照してください。

作業を開始する前に

単体システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを表示またはエクスポートする前に次のことを確認してください。

- ターゲットシステム上の Lifecycle Controller が、ファームウェアのアップデート、オペレーティングシステムの導入、ファームウェアの設定、システムプロファイルのエクスポートまたはインポートなど他のタスクを実行中の場合は、タスクが完了するのを待ってからログを取得してください。
- ネットワーク共有のパーミッションをチェックして、ターゲットシステムの Lifecycle Controller が共有にアクセスできることを確認してください。

ワークフロー

1. 単体ターゲットシステムの Lifecycle Controller ログを表示する場合は、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションの Lifecycle Controller ログを表示する場合は、**Config Utility** (設定ユーティリティ) を起動します。詳細については、「[システムビューアユーティリティ](#)」または「[設定ユーティリティ](#)」を参照してください。
2. **System Viewer** ユーティリティまたは **Config Utility** (設定ユーティリティ) で **View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) を選択します。
3. 単体システムについては、「[Lifecycle Controller ログの表示](#)」を参照してください。
4. コレクションについては、「[コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート](#)」を参照してください。

NIC または CNA プロファイルでの作業

システムに内蔵された特定のネットワークインタフェースカード (NIC) または統合ネットワークアダプタ (CNA) の異なる属性を設定し、プロファイルに保存できます。NIC または CNA プロファイルは、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成および編集できます。

作業を開始する前に

詳細については、「[共通の前提条件](#)」を参照してください。

ワークフロー

1. 特定のシステムの ConfigMgr コンソールで **System Viewer** ユーティリティを起動します。詳細については、「[システムビューアユーティリティ](#)」を参照してください。
2. **ネットワークアダプタの設定** を選択します。
3. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **Create a profile** (プロファイルの作成) - 新規の NIC または CNA プロファイルを作成します。詳細については、「[NIC または CNA プロファイルの作成](#)」を参照してください。
 - **Edit an existing profile** (既存プロファイルの編集) - 既存の NIC または CNA プロファイルを編集します。詳細については、「[NIC または CNA プロファイルの編集](#)」を参照してください。
 - **Scan collection to identify adapters** (コレクションをスキャンしてアダプタを識別) - コレクションをスキャンして、コレクション内の設定されたアダプタをリストします。詳細については、「[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)」を参照してください。
4. プロファイルにアダプタを追加するか、またはプロファイルからアダプタを削除します。詳細については、「[NIC または CNA プロファイルの作成](#)」の手順 3~4 を参照してください。
5. グリッド上のアダプタを選択し、設定します。詳細については、「[アダプタの設定](#)」を参照してください。
6. 各パーティションに選択したパーソナリティに対して NIC および iSCSI パラメータを設定します。詳細については、「[NIC および iSCSI パラメータの設定](#)」を参照してください。
7. NIC または CNA プロファイルを保存します。

Dell Lifecycle Controller Integration の使用

本章では、Microsoft System Center Configuration Manager (Configuration Manager) に Dell Lifecycle Controller Integration をインストールした後に実行できるさまざまな操作について説明します。

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration の使用を開始する前に、ターゲットシステムが自動検出され、Configuration Manager コンソールの **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) というコレクションに存在することを確認してください。

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用すると、コレクション下にあるすべての Dell システムで次の操作を実行できます。

- Dell Lifecycle Controller Integration で Connections License Manager を設定します。詳細については、「[Dell Connection License Manager を使用した DLCI ライセンス付与](#)」と「[Dell Connections License Manager で Dell Lifecycle Controller Integration を設定する](#)」を参照してください。
 - ターゲットシステムを設定します。詳細については、「[ターゲットシステムの設定](#)」を参照してください。
 - タスクシーケンスにドライバを適用します。詳細については、「[タスクシーケンスへのドライバの適用](#)」を参照してください。
-  **メモ:** オペレーティングシステムの導入中に Lifecycle Controller からドライバを適用する場合は、**Apply Drivers from Lifecycle Controller** (Lifecycle Controller からドライバを適用する) チェックボックスをオンにします。
- タスクシーケンスのメディアを作成します。詳細については、「[タスクシーケンスメディア \(ブータブル ISO\) の作成](#)」を参照してください。
 - コレクション内の特定のシステムに対して **System Viewer** ユーティリティを使用します。詳細については、「[システムビューアユーティリティ](#)」を参照してください。
 - Dell システムのコレクションに対して **設定ユーティリティ**を使用します。詳細については、「[設定ユーティリティ](#)」を参照してください。
 - ConfigMgr コンソール上の **すべての Dell Lifecycle Controller サーバー** 下にある検出された任意のシステム、または **Task Viewer** 上の任意のシステムを右クリックして、Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動します。詳細については、「[Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動](#)」を参照してください。
 - **Task Viewer** を使用して、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって処理されるタスクのステータスを表示します。詳細については、「[Task Viewer](#)」を参照してください。

Dell Connection License Manager を使用した DLCI ライセンス付与

このリリースの Dell Lifecycle Controller Integration にはライセンスが付与され、ライセンス付与は資格に基づきます。このリリースの Dell Lifecycle Controller Integration に利用可能なライセンスは、50、200、および無制限のノードライセンスです。

ライセンスがなくてもサーバーを検出することはできますが、このリリースの Dell Lifecycle Controller Integration で利用可能な機能を使用するには有効なライセンスが必要です。また、有効なライセンスがある場合でも、ライセンスに指定された数を超えるサーバーを設定することはできません。ただし、無制限ノードライセンスがある場合は、任意の数のサーバーを検出および設定できます。

PowerEdge 11G および 12G サーバーの両方にライセンスが付与されます。また、ライセンスには許容範囲があり、この範囲に到達した場合は、追加のライセンスを購入する必要があります。

初めて Dell Lifecycle Controller Integration をインストールまたは使用する場合は、Dell Connection License Manager をインストールおよび設定し、Dell サポートから取得したライセンスファイルをインポートします。Dell Lifecycle Controller で検出されたサーバーについては、「[ライセンスの取得](#)」を参照してください。Dell Lifecycle Controller Integration を使用してサーバーが検出またはインポートされると、このタスクにより 1 つのノードライセンスが消費されます。

Dell Connections License Manager での Dell Lifecycle Controller Integration の設定

次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- サイトサーバー、あるいは Configuration Manager 2007 または Configuration Manager 2012 の Configuration Manager コンソールコンポーネントがインストールおよび設定されています。
- Dell Connection License Manager アプリケーションが有効なライセンスでインストールおよび設定されています。

Dell Connections License Manager で Dell Lifecycle Controller Integration を設定するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections**（デバイスコレクション）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータ管理）→ **Collections**（コレクション）を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller → Dell Connections License Manager Configuration Utility**（Dell Connection License Manager 設定ユーティリティ）を選択します。
2. **Dell Connections License Manager Configuration Utility**（Dell Connection License Manager 設定ユーティリティ）で、**Licensing Configuration**（ライセンス設定）をクリックします。
3. **Licensing Configuration**（ライセンス設定）で、ライセンスサーバーの場所、ドメイン\ユーザー名形式のユーザー名、およびパスワードを入力します。
デフォルトのポート番号は、8543 および 8544 です。
現在ログオンしているユーザーの資格情報を適用するには、**Use current logged on user credentials**（現在ログオンしているユーザーの資格情報を使用する）を選択します。
4. 接続をテストするには、**Test Dell Connections License Manager**（Dell Connection License Manager のテスト）をクリックします。
5. **Apply**（適用）をクリックします。
6. **Launch Dell Connections License Manager Web Console**（Dell Connection License Manager ウェブコンソールの起動）をクリックします。

ターゲットシステムの設定

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、 $yx1x$ システム以降のみをサポートします。コレクション内の各システムについて、BIOS 設定で **Collect System Inventory on Restart**（起動時のシステムインベントリの収集（CSIOR））を有効にします。

 **メモ:** サーバー名の形式 $yx1x$ で、 y はアルファベット（M、R、T など）を示し、 x は数字を示します。

デフォルトでは CSIOR はオフになっています。この部品交換機能は、CSIOR を設定するオプションを提供します。

複数のシステムで CSIOR を有効化するには、「[システムの部品交換プロパティの設定](#)」を参照してください。

CSIOR を以前のサーバー世代で有効にするには、次の手順を実行します。

1. システムを再起動します。
2. パワーオンセルフテスト (POST) 中に Integrated Dell Remote Access Controller ユーティリティを起動するよう求めるプロンプトが表示されたら、<CTRL><E> を押します。
3. 選択可能なオプションから **System Services** を選択し、<Enter> を押します。
4. **Collect System Inventory on Restart** (起動時のシステムインベントリの収集) を選択し、右向きまたは下向き矢印キーを押して **Enabled** (有効) に設定します。

PowerEdge 12G サーバーで CSIOR を有効にするには、次の手順を実行します。

1. POST 中に <F2> を押して **System Setup** (セットアップユーティリティ) を起動します。
2. **iDRAC Settings** (iDRAC 設定) を選択し、**Lifecycle Controller** をクリックします。
3. **Collect system inventory on Restart (CSIOR)** (起動時のシステムインベントリの収集 (CSIOR)) を選択します。

自動検出とハンドシェイク

自動検出とハンドシェイク機能により、ターゲットシステム上の iDRAC は、プロビジョニングサービスを設定し、サイトサーバーと通信することが可能になります。Dell プロビジョニングサービスは管理アカウントをプロビジョニングし、新しいシステムで Configuration Manager をアップデートします。Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Utility (DLCU) は、プロビジョニングされたアカウントを使用してターゲットシステムの iDRAC と通信し、有効な機能を呼び出します。

Configuration Manager 用 DLCU が iDRAC 搭載システムを検出すると、**All Dell Lifecycle Controller Servers collection** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバーコレクション) が作成されます (Configuration Manager 2012 の場合は **Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション) に移動し、Configuration Manager 2007 の場合は **Devices Collections** (デバイスコレクション) に移動します。コレクション内には以下の 2 つのサブコレクションがあります。

- **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Deployed)** (管理対象 Dell Lifecycle Controller (OS 導入済み)) - オペレーティングシステムを導入したシステムを表示します。
- **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Unknown)** (管理対象 Dell Lifecycle Controller (OS 不明)) - オペレーティングシステムがまだ導入されていないシステムを表示します。

 **メモ:** Configuration Manager 用 DLCU は、フレックスアドレス指定を使用したモジュラーシステムの自動検出をサポートしません。

タスクシーケンスへのドライバの適用

導入するオペレーティングシステムに基づいて、Lifecycle Controller または Configuration Manager リポジトリからドライバを適用します。Configuration Manager リポジトリのドライバをバックアップとして使用します。

Lifecycle Controller からのドライバの適用

Lifecycle Controller からドライバを適用するには、次の手順を実行します。

 **メモ:** オンにされた Lifecycle Controller オプションによりドライバが公開されたタスクシーケンスを編集する場合は、手順 6 のエラーが手順ステータスと不明オブジェクトダイアログボックスに反映されないことがあります。変更を適用する前に、Dell Lifecycle Controller からドライバを適用するオプションを設定します。

1. 新規のタスクシーケンスを作成するか (既存のタスクシーケンスが存在しない場合)、Lifecycle Controller からドライバが公開されたタスクシーケンスを編集します。

タスクシーケンスを作成するには、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Server Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager User's Guide』（Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド）を参照してください。

2. **Apply Operating System Images**（オペレーティングシステムのイメージを適用する）を選択します。
3. **Apply operating system from a captured image**（キャプチャしたイメージからオペレーティングシステムを適用する）で、イメージパッケージとイメージを選択して検証します。
4. **Use an unattended or sysprep answer file for a custom installation**（カスタムインストールに無人または sysprep 応答ファイルを使用する）チェックボックスをオフにします。
5. **Apply Windows Settings**（Windows 設定の適用）を選択します。
6. ライセンスするモデル、プロダクトキー、システム管理者パスワード、およびタイムゾーンを入力します。
7. **Apply Drivers from Dell Lifecycle Controller**（Dell Lifecycle Controller からドライバを適用する）を選択し、ドロップダウンリストからオペレーティングシステムを選択します。
8. ConfigMgr コンソールにアクセスするためのシステム管理者の資格情報を使用してユーザー名とパスワードを入力します。
9. **Apply Driver Package**（ドライバパッケージの適用）を選択します。**Browse**（参照）をクリックし、ConfigMgr で使用できるドライバパッケージのリストからドライバパッケージを選択します。
10. **OK** をクリックして **Task Sequence Editor**（タスクシーケンスエディタ）を終了します。
11. 編集したタスクシーケンスをアドバタイズします。タスクシーケンスのアドバタイズ方法については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Server Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager User's Guide』（Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack）を参照してください。
12. Lifecycle Controller 起動メディアを作成します。詳細については、「[Lifecycle Controller 起動メディアの作成](#)」を参照してください。

ConfigMgr リポジトリからのドライバの適用

ConfigMgr リポジトリからドライバを適用するには、次の手順を実行します。

ConfigMgr で選択されたオペレーティングシステムのドライバパッケージを適用します。ドライバパッケージの適用の詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Server Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager User's Guide』（Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド）を参照してください。

予備ステップの条件の表示

タスクシーケンスの作成中に、条件 **DriversNotAppliedFromLC** が ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration により自動的に追加されます。この条件は、Lifecycle Controller からのドライバの適用が失敗した場合に予備ステップとして使用されます。

 **メモ:** この条件は無効にしたり、削除したりしないことをお勧めします。

予備ステップの条件を表示するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager で次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Software Library**（ソフトウェアライブラリ）→ **Overview**（概要）→ **Operating System**（オペレーティングシステム）→ **Task Sequence**（タスクシーケンス）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータの管理）→ **Operating System Deployment**（オペレーティングシステムの導入）→ **Task Sequence**（タスクシーケンス）を選択します。タスクシーケンスを右クリックして、**Edit**（編集）をクリックします。
2. **Computer Management**（コンピュータの管理）→ **Operating System Deployment**（オペレーティングシステムの導入）→ **Task Sequence**（タスクシーケンス）を選択します。
Task Sequence Editor（タスクシーケンスエディタ）が表示されます。

3. **Apply Driver Package**（ドライバパッケージの適用）または **Auto Apply Drivers**（ドライバの自動適用）を選択します。
4. **Options**（オプション）タブをクリックします。**DriversNotAppliedFromLC** 条件を表示することができます。

タスクシーケンスメディア（ブータブル ISO）の作成

タスクシーケンス ISO を作成するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Software Library**（ソフトウェアライブラリ）→ **Task Sequences**（タスクシーケンス）メニューを選択し、**Create Task Sequence Media**（タスクシーケンスメディアの作成）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータの管理）→ **Operating System Deployment**（オペレーティングシステムの導入）を選択し、**Task Sequences**（タスクシーケンス）を右クリックして、**Create Task Sequence Media**（タスクシーケンスメディアの作成）を選択します。

 **メモ:** このウィザードを開始する前に、すべての配布ポイントで起動イメージの管理とアップデートを行います。
2. **Task Sequence Media Wizard**（タスクシーケンスメディアウィザード）から、**Bootable Media**（ブータブルメディア）（タスクシーケンスメディアウィザード）を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
3. **CD/DVD Set**（CD/DVD セット）を選択し、**Browse**（参照）をクリックして、ISO イメージの保存場所を選択します。
4. **次へ**をクリックします。
5. **Protect Media with a Password**（パスワードでメディアを保護する）チェックボックスをオフにし、**Next**（次へ）をクリックします。
6. **Dell PowerEdge Server Deployment Boot Image** を参照して選択します。
7. ドロップダウンメニューから配布ポイントを選択し、**Show distribution points from child sites**（子サイトからの配布ポイントを表示する）チェックボックスをオンにします。
8. **次へ**をクリックします。

Summary（概要）画面にタスクシーケンスメディアの情報が表示されます。
9. **次へ**をクリックします。

プログレバーが表示されます。
10. 作業が完了したら、ウィザードを閉じます。

System Viewer ユーティリティ

System Viewer ユーティリティを使用すると、Configuration Manager コンソール上の **All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）下で検出された単体ターゲットシステムに対してソースシステムからさまざまな操作を実行できます。このユーティリティは 1 対 1 の関係で機能し、ユーザーはターゲットシステムで操作を一度に 1 つずつ実行できます。

必要な場合は、**System Viewer** ユーティリティを起動してさまざまなタスクを実行する前に、ターゲットシステムの **Integrated Dell Remote Access Controller** 資格情報を変更する必要があります。

Integrated Dell Remote Access Controller 資格情報を変更し、**System Viewer** ユーティリティを起動するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections**（デバイスコレクション）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合はコレクションに移動します。

Dell yx1x システムまたはそれ以降を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch System Viewer**（**System Viewer** の起動）を選択します。

iDRAC Authentication Information (iDRAC 認証情報) 画面に、**Configuration Manager** で既知のデフォルト資格情報が表示されます。

2. **Use Credentials Known to Configuration Manager (Default)** (**Configuration Manager** で既知の資格情報を使用 (デフォルト)) をオフにし、次のいずれかの操作を行います。
 - **Do not modify the existing account (既存アカウントを変更しない)** - このオプションはデフォルトで選択されます。資格情報を提供する場合、このオプションをオフにします。オフにしないと、既存の資格情報が維持されます。**Integrated Dell Remote Access Controller** の有効な資格情報を入力してください。**Active Directory** で認証された資格情報を提供できます。
 **メモ:** ユーザー名フィールドには特定の特殊文字のみを入力できます。iDRAC ユーザー名フィールドで使える特殊文字の詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な iDRAC のマニュアルを参照してください。
 - **Skip CA check (CA チェックの省略)** - このオプションはデフォルトで選択されます。**Configuration Manager** とターゲットシステム間で通信をセキュアにする場合は、このオプションをオフにします。このオプションをオフにすると、信頼できる認証局 (CA) によってターゲットシステムに関する証明書が発行されたことが確認されます。このオプションは、ターゲットシステムを信頼する場合のみオフにしてください。
 - **Skip CN check (CN チェックの省略)** - セキュリティを強化する場合は、このオプションをオフにします。システム名が認証され、なりすましが阻止されます。コモンネーム (CN) はターゲットシステムのホスト名と一致する必要がありません。このオプションは、信頼できるターゲットシステムの場合にのみオフにしてください。
3. **OK** をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを起動します。

System Viewer ユーティリティの使用の詳細については、「[System Viewer ユーティリティの使用](#)」を参照してください。

設定ユーティリティ

設定ユーティリティを使用すると、**ConfigMgr** コンソール上の **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての **Dell Lifecycle Controller** サーバー) 下で検出された **Dell** システムのコレクション全体に対して、ソースシステムからさまざまな操作を実行できます。このユーティリティは 1 対多の関係で機能し、**Dell** システムに存在する **Lifecycle Controller** の **Remote Enablement** 機能を使用します。すべてのターゲットシステムに対して一度にさまざまな操作を実行できます。

設定ユーティリティを起動するには、次の手順を実行します。

1. **Configuration Manager** コンソールで次の作業を行います。
 - **Configuration Manager 2012** の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
 - **Configuration Manager 2007** の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections (コレクション)** を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての **Dell Lifecycle Controller** サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility (設定ユーティリティの起動)** を選択します。

 **メモ:** 設定ユーティリティは、どのコレクションに対しても起動できます。
2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (**Dell Lifecycle Controller** 設定ユーティリティ) ウィンドウが開き、その左側のペインに次のオプションがリストされます。
 - 概要
 - **Lifecycle Controller** 起動メディアの新規作成
 - ハードウェア設定およびオペレーティングシステムの導入
 - ファームウェアインベントリ、比較、およびアップデート
 - ハードウェアインベントリ
 - セッション資格情報、通信の検証
 - **Lifecycle Controller** の資格情報の変更

- Lifecycle Controller ログの表示
- プラットフォームの復元
- ネットワークアダプタ比較レポート

設定ユーティリティの詳細については、「[設定ユーティリティの使用](#)」を参照してください。

Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用すると、Configuration Manager コンソールから、すべての Dell システムに対して Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動し、選択したシステムの Integrated Dell Remote Access Controller の設定を表示または変更することができます。

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration のインストール後に、コレクション内のいずれかのシステムを右クリックすると、**Dell Lifecycle Controller → Launch iDRAC Console (iDRAC コンソールの起動)** メニューオプションが表示されます。また、Task Viewer でシステムを選択し、右クリックすると、**Launch iDRAC Console (iDRAC コンソールの起動)** オプションが表示されます。

コレクション下のシステムに対して Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager 2007 の場合は、**Collections (コレクション) → All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー)** で任意のシステム、Configuration Manager 2012 の場合は、**Devices (デバイス) → All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー)** で任意のシステムを選択します。
2. システムを右クリックし、**Dell Lifecycle Controller → Launch iDRAC Console (iDRAC コンソールの起動)** メニューオプションを選択します。
システムの Integrated Dell Remote Access Controller コンソールがデフォルトのブラウザで起動されます。
3. Integrated Dell Remote Access Controller コンソールにログインするための資格情報を入力し、システムの Integrated Dell Remote Access Controller 設定の詳細を表示または編集します。Active Directory で認証された資格情報を提供できます。

Task Viewer からの Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動

Task Viewer から Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

1. タスクバーにある Dell アイコンをクリックして、**Task Viewer** を起動します。このアイコンは、Dell システムにオペレーティングシステムを導入しているとき、ファームウェアアップデートをシステムに適用しているとき、またはその両方のアクションを実行しているときに表示されます。
オペレーティングシステムの導入の詳細については、「[ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入](#)」を参照してください。ファームウェアアップデートの適用の詳細については、「[コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート](#)」または「[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)」を参照してください。
2. **Task Viewer** で任意のシステムを選択して右クリックし、**Launch iDRAC Console (iDRAC コンソールの起動)** オプションを選択します。
3. Integrated Dell Remote Access Controller コンソールにログインするための資格情報を入力し、システムの Integrated Dell Remote Access Controller 設定の詳細を表示または編集します。

Task Viewer

Task Viewer はタスクバーに隠れる非同期のコンポーネントであり、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって処理されるタスクのステータスを示します。タスクビューアにはすべてのタスク（たとえば、オペレーティングシステムの導入やシステムへのファームウェアアップデートの適用などの時間がかかるタスク）が表示されます。タスクビューアはタスクのキューを維持し、一度に最大 20 個のタスクを表示します。

Task Viewer には、次の詳細情報が表示されます。

- **Name (名前)** : タスクが実行されているシステムの名前またはサービスタグを示します
- **Task (タスク)** : システムで実行されているタスクを示します。
- **Status (ステータス)** : システムで実行されているタスクのステータスを示します。
- **Start Date/Time (開始日付 / 時刻)** : タスクが開始された日付と時刻を示します。
- **Time Elapsed 経過時間** : タスクが開始されてからの経過時間を示します。

また、**Task Viewer** の右下隅には、実行されている全タスクのステータス概要が表示されます。

単体システムまたはシステムのコレクションでタスクのセットの実行を開始すると、画面の右下隅にあるタスクバーに **Dell** アイコンが表示されます。この **Dell** アイコンをクリックして、**Task Viewer** を起動し、さまざまな操作を実行します。

次の表に、**Task Viewer** で実行可能な操作をリストします。

ボタン	処置
Close (閉じる)	クリックして Task Viewer を閉じます。 Task Viewer を閉じると、実行中のタスクはすべてキャンセルされます。したがって、まだ実行中のタスクがある場合は、タスクビューアを閉じないことをお勧めします。
Clear Completed (完了したタスクのクリア)	クリックして、完了したタスクまたは失敗したタスクのすべてをグリッドからクリアします。
Export Queue (キューをエクスポート)	クリックして、 Task Viewer のタスクの現在の状態を .CSV ファイルにエクスポートします。 .CSV を使用して、実行中の Dell Lifecycle Controller Integration タスクの合計数の概要を表示できます。
View Log (ログの表示)	クリックして、実行中のタスクの詳細情報を含むログファイルを表示します。
Send to Taskbar (タスクバーに送る)	クリックして、 Task Viewer を最小化し、タスクバーに収納します。

Dell Lifecycle Controller Integration を使用して実行できるその他のタスク

セキュリティの設定

DLCI のセキュリティを設定するには、次のことを行う必要があります。

- iDRAC で Dell 出荷時発行クライアント証明書を検証します。詳細については、「[自動検出のための Integrated Dell Remote Access Controller での Dell 工場出荷時発行のクライアント証明書の検証](#)」を参照してください。
- 自動検出のためにシステムを事前承認します。詳細については、「[自動検出のためのシステムの事前承認](#)」を参照してください。
- 管理者の資格情報を変更します。詳細については、「[Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって使用される管理資格情報の変更](#)」を参照してください。

GUI を使用してセキュリティを設定することもできます。詳細については、「[グラフィカルユーザーインターフェースの使用](#)」を参照してください。

自動検出のための Integrated Dell Remote Access Controller での Dell 工場出荷時発行のクライアント証明書の検証

このセキュリティオプションを使用するには、検出およびハンドシェイクプロセス中にプロビジョニングウェブサイトによって検出されるシステムに Integrated Dell Remote Access Controller に導入される工場出荷時発

行の有効なクライアント証明書がある必要があります。この機能は、デフォルトで有効です。この機能を無効にするには、次のコマンドを実行します。

C:\Program Files (x86)\Dell\DPS\ProvisionWS\bin\import.exe -CheckCertificate false



メモ: **checkCertificate** の値はデフォルトで **true** に設定されます。一意の証明書を使用しない場合は、**CheckCertificate** の値を **false** に設定してください。

自動検出のためのシステムの事前承認

このセキュリティオプションでは、検出されるシステムのサービスタグと、インポートした承認済みサービスタグのリストが照合されます。承認済みサービスタグをインポートするには、カンマ区切りのサービスタグのリストを含むファイルを作成し、次のコマンドを実行してファイルをインポートします。

C:\Program Files (x86)\Dell\DPS\ProvisionWS\bin\import.exe -add [file_with_comma_delimited_service_tags].

このコマンドを実行すると、各サービスタグのレコードがリポジトリファイル **[Program Files]\Dell\DPS\Bin\Repository.xml** に作成されます。

この機能はデフォルトで無効になっています。この承認チェックを有効にするには、次のコマンドを実行します。

C:\Program Files (x86)\Dell\DPS\ProvisionWS\bin\import.exe -CheckAuthorization true

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって使用される管理資格情報の変更

Dell Lifecycle Controller Integration が使用する Configuration Manager 用の管理資格情報を変更するには、次のコマンドを使用します。

ユーザー名を設定する場合：

C:\Program Files (x86)\Dell\DPS\ProvisionWS\bin\import.exe -CIuserID [New Console Integration Admin User ID]

パスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

C:\Program Files (x86)\Dell\DPS\ProvisionWS\bin\import.exe -CIpassword [New Console Integration Admin Password]



メモ: コマンドでは大文字と小文字を区別します。

グラフィカルユーザーインターフェースの使用

グラフィカルユーザーインターフェース（GUI）を使ってセキュリティ設定を変更することもできます。

GUI 画面を開くには、次のコマンドを使用します。

C:\Program Files (x86)\Dell\DPS\ProvisionWS\bin\import.exe -DisplayUI



メモ: **DisplayUI** 用語では、大文字と小文字が区別されます。

Array Builder の使用

Array Builder を使用すると、利用可能なすべての RAID 設定、さまざまなサイズの論理ドライブまたは仮想ディスク、あるいは空き容量のすべてを使用してアレイおよびディスクセットを定義し、個々のアレイにホットスペアを割り当てたり、コントローラにグローバルホットスペアを割り当てたりすることができます。

コントローラの作成時に、有効な設定を行うために、デフォルトの変数条件、アレイ、およびディスクが作成されます。コントローラを未構成（ディスクを非 RAID に設定）のままにすることができます。また、アレイを追加したり、その他の操作を実行したりすることもできます。

Array Builder によるルールの定義

次ような条件に基づいて、設定に一致するルールを定義できます。

- コントローラが装備された検出済みのスロット番号、または内蔵コントローラのみ（ある場合）。
- コントローラに接続されているディスクの数。
- **Array Builder** が検出した任意のコントローラに、包括的な設定を提供。

サーバー上で検出された RAID プロファイルに基づいて設定ルールを適用することもできます。これによって、検出されたハードウェアが同一の場合であっても、異なるサーバーに異なる設定を定義できます。

Array Builder を使用した RAID プロファイルの作成

RAID プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

既存のプロファイルをインポートし、**Array Builder** を使用して設定を変更することもできます。プロファイルのインポートの詳細については、「[プロファイルのインポート](#)」を参照してください。

1. **System Viewer** ユーティリティを起動し、**RAID Configuration (RAID 設定) → Create RAID Profile (RAID プロファイルの作成)** をクリックします。
Array Builder を起動すると、デフォルトの内蔵コントローラが作成されます。
2. **Configuration rule name** (設定ルール名) フィールドに設定ルール名を入力します。
3. ドロップダウンメニューから **Error handling rule** (エラー処理ルール) を選択します。次のルールを選択できます。
 - **Fail the task if any controller does not match a configuration rule** (設定ルールに一致しないコントローラがあればタスクを失敗させる) - 検出されたコントローラのいずれかがルールに従って設定できない場合は失敗を報告します。
 - **Fail the task only if the first controller does not match a configuration rule** (最初のコントローラが設定ルールに一致しない場合のみタスクを失敗させる) - 最初に検出されたコントローラ (通常、内蔵コントローラ) がルールに従って設定できない場合に失敗を報告します。
 - **Fail the task only if none of the array controllers match a configuration rule** (設定ルールに一致するアレイコントローラがない場合のみタスクを失敗させる) - システム内のすべてのコントローラがルールに一致しない場合 (つまり、どのコントローラも設定されていない場合) にのみ失敗を報告します。このルールは、RAID を設定するのに十分なディスクがコントローラにない場合も失敗します。
4. 次の操作が可能です。
 - 新しいコントローラを追加してそれらのルールを定義するか、デフォルトのコントローラを編集してルールを定義します。詳細については、「[コントローラ](#)」を参照してください。
 - デフォルトのコントローラまたは追加したコントローラの変数条件を追加または編集します。詳細については、「[変数条件](#)」を参照してください。
 - 必要な場合は、変数条件から新しいアレイを作成します。詳細については、「[アレイ](#)」を参照してください。
 - アレイを作成し、そのアレイに追加のディスク、ホットスペア、またはグローバルホットスペアを追加できます。
5. **Save** (保存) をクリックして、プロファイルを .XML ファイルとして保存します。

既存のプロファイルをインポートし、**Array Builder** を使用して設定を変更することもできます。プロファイルのインポートの詳細については、「[プロファイルのインポート](#)」を参照してください。

Array Builder の作成について

Configuration Manager 用 DLCI でのオペレーティングシステム導入の一貫として **Array Builder** を使用して作成した RAID プロファイルを使用する場合は、サーバー上の既存のコントローラと、各コントローラに接続されたディスクが検出されます。次に、ユーティリティが検出した物理的な構成と、構成ルールで定義した論理的な構成の照合が試行されます。これらのアレイ構成ルールは、アレイコントローラがどのように構成され

るかを視覚化できるグラフィカル論理レイアウトを使用して定義されます。ルールは、**Array Builder** ツリーに表示された順序で処理されるため、ルールの優先順位を正確に把握できます。

コントローラ

コントローラエレメントには、変数条件エレメントが含まれます。コントローラは、次の構成タイプのいずれかです。

- 内蔵コントローラ
- スロット「X」にあるコントローラ
- 「X」 台のディスクを持つコントローラ
- 「X」 台以上のディスクを持つコントローラ
- 残りのすべてのコントローラ

コントローラの追加

コントローラを追加するには、次の手順を実行します。

1. リストからコントローラを選択するか、または内蔵コントローラを選択します。
左側の **Controllers** (コントローラ) ドロップダウンメニューが有効になります。
2. **Controller** (コントローラ) → **Controller Configuration** (新しいコントローラ) をクリックします。
Controller Configuration (コントローラ設定) ウィンドウが表示されます。
3. コントローラの**選択条件** で次のいずれかのオプションを選択します。
 - **Select the controller located in slot** (スロットにあるコントローラを選択) - 選択するコントローラのスロット番号を入力します。
 - **Select any controller with<exactly, atleast> <number of> disks attached** (<ちょうど、少なくとも><台数>台のディスクが接続されているコントローラを選択) - 選択した数とちょうど同じ、またはそれ以上の台数のディスクがあるコントローラを選択するためのルールを設定します。
 - **構成に関係なく、システム内の残りのすべてのコントローラを選択する**
4. **Variable Matching Criteria** (変数の一致条件) で、選択した特定の条件に一致する場合のみこの構成を適用するようにルールを設定できます。**変数の時にのみこの構成を適用** を選択して、このルール設定オプションを有効にします。
5. **OK** をクリックします。

コントローラの編集

コントローラを編集するには、次の手順を実行します。

コントローラを選択し、**Controllers** (コントローラ) → **Edit Controller** (コントローラの編集) をクリックします。コントローラに変更を加えることができる **Controller Configuration** (コントローラ設定) ウィンドウが表示されます。

コントローラの削除

コントローラを削除するには、次の手順を実行します。

1. コントローラを選択し、**Controllers** (コントローラ) → **Delete Controller** (コントローラの削除) をクリックします。
接続されているすべてのアレイとディスクが削除されることを示す警告メッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。



メモ: サーバーには少なくとも 1 台のコントローラが必要です。コントローラが 1 台しかなく、そのコントローラを削除した場合は、最後のコントローラが削除されたため、デフォルトのコントローラが挿入されたことを示すメッセージが表示されます。

変数条件

複数の論理設定において同一の RAID 設定を使用できるようにするために、変数評価が提供されています。これによって、状況に応じてアレイおよび論理ドライブの異なる設定を適用できるようになります。

変数条件のエレメントには、アレイやグローバルホットスペアなどがあり、次の2タイプに分類されます。

- **No variables defined (変数未定義)**：これはすべてのコントローラに挿入されるデフォルトの設定であり、削除したり、最後の順序から移動したりできません。
- **変数定義済み**：すべての変数が、事前に定義された演算子を使って値と比較されます。

 **メモ**: ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、暗号化された形式で作成された変数をサポートしません。

新しい変数条件の追加

新しい変数条件を追加するには、次の手順を実行します。

1. 組み込みコントローラで **Embedded Controller (内蔵コントローラ)** を展開し、**[No variable conditions defined] (変数条件は定義されていません)** をクリックします。
2. **Variables (変数)** → **New Variable Condition (新しい変数条件)** をクリックします。
変数条件設定 ウィンドウが表示されます。
3. **変数一致条件** で、選択した特定の条件に一致する場合にのみこの変数が適用されるようにルールを設定できます。
4. **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**Cancel (キャンセル)** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の編集

変数条件を編集するには、次の手順を実行します。

1. 変数条件を選択し、**Variables (変数)** → **Edit Variable Condition (変数条件の編集)** をクリックします。
変数条件に対する変更を行うことができる **変数条件設定** ウィンドウが開きます。
2. **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の削除

変数条件を削除するには、次の手順を実行します。

1. 変数条件を選択し、**Variables (変数)** → **Delete Variable Condition (変数条件の削除)** をクリックします。
接続されているすべてのアレイおよびディスクが削除されることを示すメッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

アレイ

アレイノードには、RAID アレイと非 RAID ディスクグループの両方が含まれ、それぞれ異なるアイコンで示されます。デフォルトでは、コントローラの作成時に非 RAID ディスクグループが作成されます。コントローラ設定で必要なディスク台数が指定された場合は、それと同数のディスクが非 RAID グループに追加されます。

コントローラの設定と使用可能なディスク台数に応じて、アレイを追加、変更、または削除できます。

アレイエレメントには、論理ドライブと物理ディスクが含まれます。

新しいアレイの追加

新しいアレイを追加するには、次の手順を実行します。

1. 変数条件で変数条件を選択し、**Array (アレイ)** → **New Array (新しいアレイ)** をクリックします。
アレイ設定 ウィンドウが表示されます。
2. **希望する RAID レベル** ドロップダウンメニューから、必要な RAID レベルを設定します。
3. RAID レベルが 50 または 60 の場合は、アレイのスパン長を入力します。
4. **OK** をクリックしてアレイを適用するか、**Cancel (キャンセル)** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの編集

アレイを編集するには、次の手順を実行します。

1. アレイを選択し、**Arrays (アレイ) → Edit Array (アレイの編集)** をクリックします。
Array Settings (アレイ設定) ウィンドウが表示されます。ここでは、このアレイのために異なる RAID レベルを選択することができます。
2. **OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの削除

アレイを削除するには、次の手順を実行します。

1. アレイを選択し、**Arrays (アレイ) → Delete Array (アレイの削除)** をクリックします。
接続されているすべてのディスクが削除されることを示すメッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

論理ドライブ (仮想ディスク)

論理ドライブは、RAID アレイと非 RAID グループに存在します。論理ドライブは、サイズ (GB 単位) を指定するか、アレイ内で使用可能な (残りの) 全容量を使用することにより設定できます。デフォルトで、すべての新規アレイに対して 1 つの論理ドライブが作成され、使用可能な容量すべてを使用するように設定されます。

サイズ指定の論理ドライブが定義されている場合は、他の論理ドライブにアレイ上の所定の容量が割り当てられた後で、**using all remaining space** (残存全容量を使用する) が指定された論理ドライブが残りの容量を使用します。

 **メモ:** Array Builder は、サイズが 10 GB、50 GB、または 60 GB の論理ドライブの作成と、非 RAID グループに属する論理ドライブの作成をサポートしません。

新しい論理ドライブの追加

新しい論理ドライブをアレイに追加するには、次の手順を実行します。

1. アレイを選択し、**Logical Drives (論理ドライブ) → New Logical Drive (新しい論理ドライブ)** をクリックします。
論理ドライブ設定 ウィンドウが表示されます。
2. **論理ドライブの作成** で、その論理ドライブに必要な正確なギガバイト数を入力します。
3. **OK** をクリックして論理ドライブを作成するか、または **キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの編集

論理ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. 論理ドライブを選択し、**Logical Drives (論理ドライブ) → Edit Logical Drive (論理ドライブの編集)** をクリックします。
論理ドライブ設定 ウィンドウが表示されます。
2. 論理ドライブのサイズを変更します。
3. **OK** をクリックして変更を適用するか、**キャンセル** をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの削除

論理ドライブを削除するには、次の手順を実行します。

1. 論理ドライブを選択し、**Logical Drives (論理ドライブ) → Delete Logical Drive (論理ドライブの削除)** をクリックします。
削除を確認するメッセージが表示されます。
2. **はい** をクリックして削除するか、**いいえ** をクリックしてキャンセルします。

ディスク (アレイディスク)

アレイ (または非 RAID ディスクノード) に含めるディスクを次のタイプとして指定できます。

- **標準ディスク** — 基本的な未定義ディスクタイプで、アレイ上のストレージを構成します。
- **Hot Spares (ホットスペア) - RAID** ディスクが特定のアレイに割り当てられるときに障害が起きた場合に、オンライン冗長性が提供されます。
- **All Remaining Disks (残りの全ディスク)** - 正確なディスク台数を指定せずにアレイを定義するオプションが提供されます。

コントローラの設定で必要なディスク台数を指定すると、その台数のディスクが非 RAID に追加されます。コントローラが正確な数を指定する場合は、ディスクを追加したり、コントローラからディスクを削除したりできません。ディスクはアレイ同士 (または非 RAID グループ) でのみ移動できます。コントローラがディスクの最小数を指定する場合は、ディスクを追加または削除できますが、コントローラの設定の最小数未満になるようディスクを削除することはできません。

新しいディスクの追加

新しいディスクをアレイに追加するには、そのアレイを選択して **Disks (ディスク) → New Disk (新規ディスク)** をクリックします。

次のオプションから選択できます。

- **単一ディスク**
- **複数ディスク**
- **Hot spare (ホットスペア)** (現在のアレイのみ)
- **Global hot spare (グローバルホットスペア)** (すべてのアレイ)

ディスクの変更

ディスクを変更するには、そのディスクをクリックして **ディスク → ディスクの変更** と選択します。

ディスクは次のいずれかに変更できます。

- **標準ディスク**
- **Hot spare (ホットスペア)** (現在のアレイのみ)
- **Global hot spare (グローバルホットスペア)** (すべてのアレイ)

ディスクの削除

ディスクを削除するには、そのディスクをクリックして **ディスク → ディスクの削除** と選択します。

プロファイルのインポート

このメニュー項目では、既存の **Array Builder** プロファイルを検索およびインポートできます。XML プロファイルファイルは適切にフォーマットする必要があります。正しくフォーマットされていないと、Configuration Manager によって XML ファイルが自動的に変更され、変更が通知されます。

既存の Array Builder XML ファイルを別の場所からインポートするには、**Import a Profile** (プロファイルのインポート) をクリックします。

設定ユーティリティの使用

本項では、Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティで実行できるさまざまな操作について説明します。

ConfigMgr コンソールの **Config Utility** (設定ユーティリティ) は、次の用途に使用できます。

- リモートでオペレーティングシステムを導入するために新しい Lifecycle Controller 起動メディアを作成します。詳細については、「[Lifecycle Controller 起動メディアの作成](#)」を参照してください。
- ハードウェアを設定し、コレクション内のターゲットシステムにオペレーティングシステムを導入します。詳細については、「[ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入](#)」を参照してください。
- ファームウェアインベントリを表示し、ベースラインと比較して、コレクション内のすべてのシステムのリポジトリを使用してファームウェアをアップデートします。詳細については、「[コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート](#)」を参照してください。



メモ: リポジトリは、Dell Repository Manager を使用して作成できます。Dell Repository Manager の詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Repository Manager User's Guide』(Dell Repository Manager ユーザーズガイド) を参照してください。

- コレクション内のすべてのシステムの現在のハードウェアインベントリを表示します。詳細については、「[ハードウェアインベントリの表示](#)」を参照してください。
- 現在のセッションの Lifecycle Controller 資格情報を設定し、Dell LC で通信およびユーザーアカウントを検証します。詳細については、「[Lifecycle Controller との通信の検証](#)」を参照してください。
- Dell システムのターゲット先コレクションで Lifecycle Controller の資格情報を変更および設定します。詳細については、「[Lifecycle Controller の資格情報の変更](#)」を参照してください。
- コレクションの Lifecycle Controller ログを表示およびエクスポートします。詳細については、「[コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート](#)」を参照してください。
- 以下の操作を含む、コレクション内のシステムのプラットフォーム情報を復元するタスクを実行します。
 - コレクション内のすべてのシステムのシステムファイルのエクスポート。
 - コレクション内のすべてのシステムのシステムファイルのインポート。
 - コレクションの部品交換プロパティの設定。

詳細については、「[コレクションのプラットフォーム復元](#)」を参照してください。

- NIC 設定プロファイルとコレクション内のシステムを比較します。詳細については、「[NIC または CNA プロファイルのコレクション内システムとの比較](#)」を参照してください。



メモ: Dell Lifecycle Controller Integration は、上記すべてのアクションを一度に 20 システムに対して実行します。コレクション内に 100 システムある場合は、最初の 20 システムが最初にアップデートされ、その後には次の 20 システムがアップデートされ、それ以降も同様の操作が行われます。

Lifecycle Controller 起動メディアの作成

オペレーティングシステムをリモートから導入するには、Lifecycle Controller の起動メディアを作成します。

Lifecycle Controller の起動メディアを作成するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。

- Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。

- Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータ管理）→ **Collections** を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility**（設定ユーティリティの起動）を選択します

 **メモ:** 設定ユーティリティは、どのコレクションに対しても起動できます。

2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility**（Dell Lifecycle Controller Configuration ユーティリティ）ウィンドウの左ペインで **Create new Lifecycle Controller Boot Media**（新規の Lifecycle Controller 起動メディアの作成）を選択します
3. **Browse**（参照）をクリックし、作成したブータブル ISO を選択します。詳細については、「[タスクシーケンスメディア（ブータブル ISO）の作成](#)」を参照してください
4. Dell Lifecycle Controller 起動メディアを保存するフォルダまたはパスを指定します。

 **メモ:** 起動メディアはローカルドライブに保存し、必要な場合はネットワーク上の場所にコピーすることをお勧めします。

5. **作成** をクリックします

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所の設定

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所を設定するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合：
 - **Administration**（管理）→ **Site Configuration**（サイト設定）→ **Sites**（サイト）ト→<サイトサーバー名>を右クリック→**Configure Site Components**（サイトコンポーネントの設定）→ **Out of Band Management**（帯域外管理）と選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合：
 - a. **System Center Configuration Manager** → **Site Management**（サイトデータベース）→ **Site Management**（サイト管理）→<サイトサーバー名>→ **Site Settings**（サイト設定）→ **Component Configuration**（コンポーネント設定）と選択します。
 - b. **Component Configuration**（コンポーネント設定）ウィンドウで、**Out of Band Management**（帯域外管理）を右クリックして **Properties**（プロパティ）を選択します。
- Out of Band Management Component Properties**（帯域外管理コンポーネントプロパティ）ウィンドウが表示されます。
2. **Dell Lifecycle Controller** タブをクリックします。
 3. **Default Share Location for Custom Lifecycle Controller Boot Media**（カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所）の下で **Modify**（変更）をクリックして、カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所を変更します。
 4. **Modify Share Information 共有情報の変更**（共有情報の変更）ウィンドウで、新しい共有名と共有パスを入力します。
 5. **OK** をクリックします。

ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入

オペレーティングシステムのリモート導入は、Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) を使用して、自動検出された任意のシステムにターゲットオペレーティングシステムの無人インストールを実行する機能です。

この機能は、次のことを行います。

- Dell リポジトリからファームウェアをアップデートする。

- BIOS の設定を変更する。
- NIC または CNA プロファイルを一連のターゲットシステムに適用することを可能にする。
- RAID 設定を変更する。
- Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを一連のターゲットシステムに適用することを可能にする。
- 導入するアドバタイズメントおよびオペレーティングシステムの選択を可能にする。
- オペレーティングシステムの導入に使用するブータブルメディアの選択を可能にする。

オペレーティングシステムの展開

Windows および Windows 以外のオペレーティングシステムをコレクションに導入できます。オペレーティングシステムの導入は、複数のサーバーにオペレーティングシステムを導入する場合のみサポートされます。オペレーティングシステムの導入中は、インストールの状態および進捗状況が **DLCI Task Viewer** に表示されます。

オペレーティングシステムのインストール後、システムはコレクションに追加され、**管理対象 Dell Lifecycle Controller サーバー <OS 名>** と示されます。

ここで、**OS 名** は以下のいずれかです。

- Windows オペレーティングシステム
- Red Hat Enterprise Linux
- ESXi

 **メモ:** Windows 以外のオペレーティングシステムを導入した後は、システム名のサービスタグがホスト名として **Configuration Manager** コンソールに表示されます。

本リリースでは、ESXi インストールはハードディスクでのみサポートされます。

ESXi と Red Hat Enterprise Linux の場合、オペレーティングシステムは最初のディスクにデフォルト設定でインストールされます。

Red Hat Enterprise Linux の場合は、以下の設定が行われます。

- 言語が米国に設定される
- キーボードが米国（米国英語）に設定される
- デフォルトで、タイムゾーンが米国ニューヨークに設定される

Red Hat Enterprise Linux 6.5 および Red Hat Enterprise Linux 6.4 オペレーティングシステムの導入には、**DLCI** が所定の ISO にすべてのドライバを必要とします。**DLCI** は、所定のプラットフォーム用の所定 ISO ですべてのドライバが使用可能であることを前提とします。**Red Hat Enterprise Linux** リポジトリで使用可能なパッケージのみがインストールされます。

 **メモ:** RHEL の導入には、Dell のカスタム ISO を使用します。

導入時に、以下のパッケージが **Red Hat Enterprise Linux** リポジトリでインストールされます。

- @base
- @client-mgmt-tools
- @console-internet
- @core
- @debugging
- @directory-client
- @hardware-monitoring
- @java-platform

- @large-systems
- @network-file-system-client
- @performance
- @perl-runtime
- @server-platform
- @server-policy
- pax
- python-dmidecode
- oddjob
- sgpio
- certmonger
- pam_krb5
- krb5-workstation
- perl-DBD-SQLite

ESXi の導入には、dell.com/support/manuals で入手可能な Dell カスタム ISO を使用します。

NFS 共有で ISO 共有を提供します。この共有は、ISO を解凍し、カスタム ISO を作成するために DLCI によって使用されます。カスタム ISO は同じ共有に保存されます。

NFS 共有があるマシンはインターネットに接続しないことをお勧めします。

DLCI は、Windows 以外のオペレーティングシステムのインストール前に、ターゲットシステムのすべてのパーティションをクリアします。

プレオペレーティングシステムイメージはネットワーク上の仮想メディアとしてマウントされ、ターゲットのホストオペレーティングシステムのドライバは、Configuration Manager コンソールのリポジトリまたは Lifecycle Controller のいずれかから適用されます。

Lifecycle Controller からドライバを選択する場合、サポートされているオペレーティングシステムのリストは、Integrated Dell Remote Access Controller にフラッシュされた最新のドライバパックに基づきます。また、ISO イメージをターゲットシステムの vFlash SD カードにダウンロードし、ダウンロードされた ISO イメージからシステムを起動することもできます。

 **メモ:** vFlash 機能は、Integrated Dell Remote Access Controller バージョン 1.3 以降のファームウェアを搭載したラックとタワーサーバー、または Integrated Dell Remote Access Controller バージョン 2.2 以降を搭載したブレードサーバー上でしか使用できません。

オペレーティングシステムのリモート導入、および vFlash 上のオペレーティングシステムイメージからのステージングと起動の詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Lifecycle Controller User Guide』（Dell Lifecycle Controller ユーザーガイド）を参照してください。

ハードウェア設定および OS 導入ワークフロー

コレクションにオペレーティングシステムを導入するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections**（デバイスコレクション）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータ管理）→ **Collections**（コレクション）を選択します。

適切な Dell コレクションを右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility**（設定ユーティリティの起動）を選択します。
2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility**（Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ）から、**Hardware Configuration and Operating System Deployment**（ハードウェア設定およびオペレーティングシステムの導入）を選択します。

3. コレクションでファームウェアをアップデートする場合は、**Update Firmware from a Dell Repository** (Dell リポジトリからファームウェアをアップデートする) を選択します。詳細については、「[OS 導入中のファームウェアのアップデート](#)」を参照してください。
4. **次へ** をクリックします。
5. ハードウェアの設定を変更する場合は、**Configure Hardware** (ハードウェアの設定) を選択します。詳細については、「[オペレーティングシステム導入中のハードウェアの構成](#)」を参照してください。
6. **次へ** をクリックします。
7. **Configure RAID** (RAID の設定) を選択してサーバー上の RAID を設定します。詳細については、「[RAID の設定](#)」を参照してください。
8. **次へ** をクリックします。
9. コレクションにネットワークアダプタプロファイルを適用する場合は、**Configure network adapter** (ネットワークアダプタの設定) を選択します。詳細については、「[コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用](#)」を参照してください。
10. **次へ** をクリックします。
11. コレクションに **Integrated Dell Remote Access Controller** プロファイルを適用する場合は、**Configure iDRAC** (iDRAC の設定) を選択します。詳細については、「[コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用](#)」を参照してください。
12. コレクションへのオペレーティングシステムの導入を省略したい場合は、アドバタイズメント画面で **Do not deploy operating system** (オペレーティングシステムを導入しない) を選択します。
この場合は、**Next** (次へ) ボタンが無効になり、**Reboot targeted collection** (ターゲット先コレクションの再起動) を直接クリックできます。前の手順で行った選択に基づいてハードウェアの設定が送信され、[Task Viewer](#) でタスクのステータスを確認できます。
13. オペレーティングシステムを導入する場合は、次の手順を実行します。
 - Windows オペレーティングシステムを導入する場合 : **Windows Operating System** (Windows オペレーティングシステム) を選択し、タスクシーケンスをコレクションにアドバタイズするアドバタイズメントと、コレクションに導入するオペレーティングシステムを選択します。
 - Windows 以外のオペレーティングシステムを導入する場合 : **Non Windows Operating System** (Windows 以外のオペレーティングシステム) を選択し、オペレーティングシステムを選択して詳細を提供し、**Next** (次へ) をクリックします。
 - **Select ISO Image** (ISO イメージの選択) では、Windows 以外の導入のための起動、資格情報、および参照ボタンへのその他のオプションが無効になります。
14. **Select Lifecycle Controller bootable media** (Lifecycle Controller 起動メディアを選択) の下から次のオプションのいずれかを選択します。
 - **Boot to Network ISO (ネットワーク ISO で起動)** - 指定された ISO を再起動します。
 - **Stage ISO to vFlash and Reboot (ISO を vFlash にステージングして再起動)** - ISO を vFlash にダウンロードして再起動します。
 - **Reboot to vFlash (ISO Must be present on vFlash) (vFlash から再起動 (ISO が vFlash 上にあることが必要))** - vFlash から再起動します。ISO が vFlash にあることを確認します。
 -  **メモ:** **Reboot to vFlash (ISO Must be present on vFlash) (vFlash から再起動 (ISO が vFlash 上にあることが必要))** オプションを使用するには、vFlash 上で作成されたパーティションのラベル名が **ISOIMG** である必要があります。
 - ネットワーク ISO を予備のステップにする場合は、**Use Network ISO as Fallback** (ネットワーク ISO を予備として使用) チェックボックスを選択します。
 - **Browse** (参照) をクリックし、**Dell Lifecycle Controller** 起動メディアが保存されているパスを選択します。
 -  **メモ:** Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルトの共有の場所を設定した場合は、デフォルトの場所が自動的に入力されます。詳細については、「[Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所の設定](#)」を参照してください。
15. Dell Lifecycle Controller 起動メディアがある共有にアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力します。

16. **Reboot Targeted Collection** (ターゲット先コレクションの再起動) をクリックします。これにより、コレクション内の各システムのジョブが **Task Viewer** に送信されます。キュー内の現在のタスクとそれらのステータスを表示するには、タスクバーにある **Dell** アイコンをクリックして **Task Viewer** を開きます。**Task Viewer** の詳細については、「[Task Viewer](#)」を参照してください。

Integrated Dell Remote Access Controller 搭載のシステムが **WS-MAN** コマンドを受信すると、システムは **Windows PE** から再起動され、アドパタイズされたタスクシーケンスが実行されます。この後で、タスクシーケンスで作成した起動順序に応じて、システムは **Lifecycle Controller** 起動メディアから自動的に起動されます。

 **メモ:** オペレーティングシステムの導入後にシステムをアップデートするときにシステムサービスがまだ利用可能でない場合は、**iDRAC** のウェブベースインターフェースを使用して **Integrated Dell Remote Access Controller** をリセットできます。詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『**Dell Lifecycle Controller Remote Services User's Guide**』 (**Dell Lifecycle Controller Remote Services ユーザーズガイド**) を参照してください。

導入が正しく行われると、**Integrated Dell Remote Access Controller** 搭載のシステムは **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての **Dell Lifecycle Controller** サーバー) 下の **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Deployed)** (管理対象 **Dell Lifecycle Controller** (OS 導入済み)) コレクションに移動します。

 **メモ:** オペレーティングシステムの導入後にターゲットシステムのホスト名を変更した場合、システムは **Configuration Manager** コンソール上の **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Deployed)** (管理対象 **Dell Lifecycle Controller** (OS 導入済み)) コレクション下に表示されたままになります。ホスト名の変更時にシステムを再検出する必要はありません。

OS 導入中のファームウェアのアップデート

ファームウェアをアップデートするには、次の手順を実行してください。

1. 次のオプションのいずれかを選択します。

- **Dell PDK catalog (Dell PDK カタログ)** - ファームウェアインベントリの比較に使用する **Dell PDK** カタログを指定します。PDK を指定するには、次の手順を実行します。
 - **Browse** (参照) をクリックしてカタログを保存したファイルの場所に移動します。システムの **Dell Lifecycle Controller** がアクセスできる **CIFS** 共有上にカタログがあることを確認します。
 - カタログからファームウェアインベントリをアップデートする場合は、カタログがある **CIFS** 共有に対して **User Name** (ユーザー名) と **Password** (パスワード) を指定します。カタログを表示する、またはカタログと比較する場合は、ユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。
- **FTP: ftp.dell.com** - **Dell** FTP サイトに接続してアップデートをダウンロードします。
- **Firmware inventory profile (ファームウェアインベントリのプロファイル)** - 既存のプロファイルと比較し、システムのファームウェアをアップデートします。参照 をクリックし、プロファイルを保存した場所に移動します。

2. **次へ** をクリックします。

画面に、コレクションのサーバーのファームウェア詳細と、ファームウェアのベースラインバージョンが表示されます。

3. 新しいファームウェアでアップデートするサーバーを選択し、**Next** (次へ) をクリックします。

次の画面で、ファームウェアダウンロードの進捗状態が表示されます。

4. ファームウェアのダウンロードが終了したら、**Next** (次へ) をクリックしてシステムのハードウェアを設定します。

OS 導入中のハードウェアの設定

ハードウェアを設定するには、次の手順を実行します。

1. **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** を使用して作成したハードウェアプロファイルを選択します。このプロファイルは、オペレーティングシステムの導入プロセスで適用されます。ハードウェアプロファイルの作成の詳細については、「[新規プロファイルの作成](#)」を参照してください。
2. この手順に失敗しても次の手順に進む場合は、**Continue on Error** (エラー発生時に続行) を選択します。このオプションはデフォルトで選択されます。このオプションをオフにすると、エラー発生時にハードウェア設定プロセスが中止されます。
3. **Next** (次へ) をクリックして、RAID の設定に進みます。

RAID の設定

RAID を設定するには、次を行います。

1. **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成した RAID プロファイルを選択します。このプロファイルは、オペレーティングシステムの導入プロセスで適用されます。RAID プロファイルの作成の詳細については、「[Array Builder の使用](#)」を参照してください。
2. **Next** (次へ) をクリックしてネットワークアダプタを設定します。

 **メモ:** システムで RAID 設定を行うと、システムの元のコントローラ設定はリセットされ、設定済みの仮想ディスク (VD) やその他の設定はすべて消去されます。

コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用

 **メモ:** **Config Utility** (設定ユーティリティ) で属性値を適用すると、依存する属性の値はチェックされません。

サポートされる CNA については、**Lifecycle Controller** のマニュアルを参照してください。

ネットワークアダプタを設定し、コレクションに NIC/CNA プロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

1. **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成した NIC/CNA プロファイルを選択します。このプロファイルは、ハードウェアの設定プロセスで適用されます。NIC/CNA プロファイルの作成の詳細については、「[NIC または CNA プロファイルの作成](#)」を参照してください。
2. 単純な NIC プロファイルを選択する場合は、ターゲットシステムで **Unified Server Configurator** を起動することによってプロファイル内の全設定がターゲットシステムに適用されているかどうかを検証できます。
3. **Broadcom CNA** プロファイルを選択する場合は、設定が表 3 に基づいて適用されるかどうかを検証できます。

表 3. **Broadcom** プロファイル設定

S.No	ターゲットサーバー設定	プロファイル設定	適用される設定
1.	デュアルポート NIC (パーティション無効)	デュアルポート NIC デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポートクアド パーティション NIC パーティションは、シ ステムの再起動時に有効 になりません。
2.	デュアルポート NIC (パーティション無効)	デュアルポート NIC	デュアルポート NIC ポートレベルの設定は、 システムの再起動時に適 用されます。

S.No	ターゲットサーバー設定	プロファイル設定	適用される設定
3.	デュアルポート NIC (パーティション無効)	デュアルポートクアドパーティション NIC	デュアルポートクアドパーティション NIC パーティションは、システムの再起動時に有効になります。
4.	デュアルポートクアドパーティション NIC	デュアルポート NIC デュアルポートクアドパーティション NIC	デュアルポートクアドパーティション
5.	デュアルポートクアドパーティション NIC	デュアルポート NIC	ターゲットサーバー設定とプロファイル設定が一致しないため、何も適用されません。
6.	デュアルポートクアドパーティション NIC	デュアルポートクアドパーティション NIC	デュアルポートクアドパーティション

4. **次へ** をクリックして、Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを適用します。



メモ: NIC/CNA プロファイルの適用中にエラーが発生した場合、オペレーティングシステム導入プロセスは次の手順に進みます。**Config Utility** (設定ユーティリティ) を使用して属性を適用するときに、依存する属性値はチェックされません。ハードウェアの設定タスクの完了後に、設定ユーティリティで **Network Adapter Comparison Report** (ネットワークアダプタ比較レポート) を使用して属性が正常に適用されているかどうかを確認します。

コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用

Integrated Dell Remote Access Controller を設定し、コレクションに Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

1. **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成した Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを選択します。このプロファイルは、ハードウェアの設定プロセスで適用されます。Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成の詳細については、「[Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成](#)」を参照してください。
2. Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを選択した後に、設定が次のパラメータに基づいて適用されたかどうかを検証できます。

表 4. iDRAC プロファイル設定

S.No	ターゲットサーバー	プロファイル設定	適用可能な設定
1.	ラック型システムとタワー型システム	4 タイプすべての属性が設定されます。	Integrated Dell Remote Access Controller プロファイル内のすべての属性。
2.	ブレードシステム	4 タイプすべての属性が設定されます。	• 共通 IP 設定のすべての属性。 • IPv4 設定のすべての属性。 • LAN 詳細設定からの vLAN ID および vLAN 優先度属性のみ。
3.	静的 IP アドレスを持つラック、タワー、またはブレードシステム	IPv4 設定属性のみ。	IPv4 アドレスソースがアップデートされます。
4.	ラック、タワー、またはブレードシステム	LAN 設定属性のみ。	ラックおよびタワーシステムのみに適用され、ブ

S.No	ターゲットサーバー	プロファイル設定	適用可能な設定
5.	ラック、タワー、またはブレードシステム	LAN 詳細設定属性のみ。	レードシステムには適用されません。 LAN 詳細設定属性のすべてがラックおよびタワーシステムに適用されます。 vLAN ID および vLAN 優先度属性のみがブレードシステムに適用されます。
6.	ラック、タワー、またはブレードシステム	共通の IP 設定属性のみ。	共通の IP 設定属性。
7.	iDRAC6 エンタープライズカード未装備のラック、タワー、またはブレードシステム	NIC モードが Dedicated (専用) に設定されている LAN 設定。	この属性には iDRAC6 エンタープライズカードが必要なので、何も適用されません。
8.	ラック、タワー、またはブレードシステム	NIC モードが Shared (共有) に設定されている LAN 設定。	属性は、ホストオペレーティングシステムが NIC チューニングに設定されている場合に限り、ラックおよびタワーシステムのみ適用されます。
9.	ラック、タワー、またはブレードシステム	指定された IP 範囲がシステムの数未満の IPv4 設定。	何も適用されず、OS 導入ワークフローでエラーが表示されます。
10.	Unified Server Configurator から起動されたラック、タワー、またはブレードシステム	4 タイプすべての属性が設定されます。	すべての属性がシステムに適用可能です。

3. **Next** (次へ) をクリックして、アドパタイズメントを選択します。



メモ: Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用中にエラーが発生すると、オペレーティングシステムの導入プロセスは停止します。

コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート

この機能を使用すると、コレクション内の Lifecycle Controller 搭載 Dell システムのファームウェアインベントリを取得、比較、およびアップデートできます。



メモ: リモートでファームウェアを比較およびアップデートするには、Dell システムに搭載されている iDRAC 6 のファームウェアバージョンが 1.5 以上である必要があります。ファームウェアバージョン 1.5 へのアップグレードの詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) Version 1.5 User Guide』(Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) バージョン 1.5 ユーザーガイド) を参照してください。

ファームウェアインベントリの比較とアップデートを行うには、次の手順を実行します。

1. **Configuration Manager** コンソールで次の作業を行います。

- Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
- Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management** (コンピュータ管理) → **Collections** を選択します。

- All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller → Launch Config Utility** (設定ユーティリティの起動) を選択します
2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ)** の左ペインで、**Firmware Inventory, Compare** (ファームウェアのインベントリ、比較) および **Update** (アップデート) を選択します。
 3. 次のオプションからベースラインを選択します。
 - **Dell PDK カタログ - ファームウェアインベントリと比較する Dell PDK カタログ**を指定します。PDK カタログを指定するには、次の手順を実行します。
 - **Browse** (参照) をクリックしてカタログを保存したファイルの場所に移動します。Dell Lifecycle Controller がアクセスできる CIFS 共有上にカタログがあることを確認します。
 - カタログからファームウェアインベントリをアップデートする場合は、カタログがある CIFS 共有に対して **User Name** (ユーザー名) と **Password** (パスワード) を指定します。カタログを表示する、またはカタログと比較する場合は、ユーザー名とパスワードを指定する必要がありません。
 **メモ:** ファームウェアインベントリをアップデートするには、ローカルのリポジトリを指定する必要があります。
 - **FTP : ftp.dell.com** - ファームウェアインベントリを比較するために、Dell FTP サイトのカタログに接続します。
 - **Firmware Inventory Profile (ファームウェアインベントリのプロファイル)** - 保存済みの既存のプロファイルを指定し、これを使ってコレクションのファームウェアインベントリの比較およびアップデートを行います。
 4. **次へ** をクリックします。

Firmware Inventory, Compare, and Update (ファームウェアのインベントリ、比較、およびアップデート) 画面に、次の情報が表示されます。

 - **Name (名前)** - コレクション内のシステムの名前を示します。
 - **Model (モデル)** - システムのモデル情報を示します。
 - **Component (コンポーネント)** - サーバー上の利用可能なコンポーネントを示します。
 - **Version (バージョン)** - コンポーネントのファームウェアバージョンを示します。
 - **Baseline (ベースライン)** - コンポーネントのベースラインファームウェアバージョンを示します。
 - **Criticality (重要度)** - ファームウェアのステータスと、コレクションのファームウェアが適正であるか、あるいはアップデートが必要かどうかを示します。
 5. **Copy to Clipboard** (クリップボードにコピー) をクリックして情報をクリップボードにコピーするか、**Export to CSV** (CSV にエクスポート) をクリックしてこの情報をカンマ区切り形式でエクスポートします。
 6. 新しいファームウェアでアップデートするサーバーを選択し、**Next** (次へ) をクリックします。画面にファームウェアダウンロードの進捗状態が表示されます。
 7. ダウンロードの完了後、**Next** (次へ) をクリックし、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **Start now (今すぐ開始)** — アップデートをただちに開始します。
 - **Start on next reboot (次の起動時に開始)** — 次回ターゲットシステムが起動するときに開始します。
 - **Schedule update (アップデートの予約)** — 日時を指定し、アップデートをその日にスケジュールします。
 8. ファームウェアアップデートプロセスを完了するには、**Finish** (終了) をクリックします。

ハードウェアインベントリの表示

設定ユーティリティを使用して、コレクション内のすべてのシステムのハードウェアインベントリに関する詳細を表示することができます。

ファームウェアインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。

- Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) に移動します。
- Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management** (コンピュータ管理) → **Collections** (コレクション) に移動します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller → Launch Config Utility** (設定ユーティリティの起動) 動を選択します。

2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) で、**Hardware Inventory** (ハードウェアインベントリ) を選択します。

Dell Lifecycle Controller Configuration Utility (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の右ペインに、次の詳細情報が表示されます。

- **Name** (名前) : コレクションの一部である Dell システムの名前を示します。
- **Hardware** (ハードウェア) : システムのハードウェアコンポーネント (メモリ、CPU、Integrated Dell Remote Access Controller カードなど) を示します。
- **FQDD** : ハードウェアコンポーネントの完全に修飾されたデバイスの記述を示します。
- **Description** (説明) : ハードウェアコンポーネントのプロパティを示します。

 **メモ:** 設定ユーティリティがコレクションのハードウェアインベントリの詳細情報を取得しているときにネットワーク接続で障害が発生した場合は、ユーティリティを終了し、ネットワーク接続が回復してから再度ユーティリティを起動してください。ハードウェアインベントリの詳細情報は、自動的に更新されません。

 **メモ:** yx1x システムでは、Slot Length (スロット長) および Slot Type (スロットタイプ) フィールドには、Unknown (不明) ではなく Not Applicable (該当なし) と表示される場合があります。

Lifecycle Controller との通信の検証

検出された Integrated Dell Remote Access Controller 搭載のシステムの資格情報を検証するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。

- Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
- Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management** (コンピュータ管理) → **Collections** (コレクション) を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller → Launch Config Utility** (設定ユーティリティの起動) を選択します。

2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の左ペインで、**Session Credentials, Verify Communication** (セッション資格情報、通信の検証) を選択します。

3. **Run Check** (チェックの実行) をクリックして、検出されたシステムの iDRAC との通信を検証します。
ネットワーク上で検出された iDRAC のリストと、その通信状態が表示されます。

4. チェックが完了すると、**Export to CSV** (CSV にエクスポート) をクリックして結果を CSV 形式でエクスポートし、ローカルドライブの場所を提供します。

または

Copy to Clipboard (クリップボードにコピー) をクリックして結果をクリップボードにコピーし、プレーンテキスト形式で保存します。

Lifecycle Controller の資格情報の変更

Integrated Dell Remote Access Controller 搭載システム上で、次の手順に従って ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で設定された WS-MAN 資格情報の検証や変更を行います。

 **メモ:** Lifecycle Controller の資格情報と ConfigMgr データベースを同時に変更することをお勧めします。

Lifecycle Controller の資格情報を変更するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections (コレクション)** を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility (設定ユーティリティの起動)** を選択します。
 2. **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の左ペインで、**Modify Credentials on Lifecycle Controllers** (Lifecycle Controllers 資格情報の変更) を選択します。
 3. 現在のユーザー名とパスワードを入力してから、新しいユーザー名とパスワードを入力します。Active Directory で認証されたユーザーの資格情報を提供できます。

 **メモ:** ユーザー名フィールドには特定の特殊文字を入力できません。ユーザー名フィールドで利用できる特殊文字の詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な iDRAC のマニュアルを参照してください。

 - **Skip CA check (CA チェックの省略)** - このオプションはデフォルトで選択されます。ConfigMgr とターゲットシステム間で通信をセキュアにする場合は、このオプションをオフにします。このオプションをオフにすると、信頼できる認証局 (CA) によってターゲットシステムに関する証明書が発行されたことが確認されます。このオプションは、ターゲットシステムを信頼する場合のみオフにしてください。
 - **Skip CN check (CN チェックの省略)** - セキュリティを強化する場合は、このオプションをオフにします。システム名が認証され、なりすましが阻止されます。コモンネーム (CN) はターゲットシステムのホスト名と一致する必要がありません。このオプションは、信頼できるターゲットシステムの場合にのみオフにしてください。
 4. **アップデート** をクリックします。

ネットワーク上で検出された iDRAC のリストと、その通信状態が表示されます。

ユーザー名およびパスワード資格情報を変更し、その変更を示すために、一連の WS-MAN コマンドがコレクション内の Integrated Dell Remote Access Controller 搭載システムすべてに送信されます。
 5. アップデートが完了したら、**Export to CSV (CSV にエクスポート)** をクリックして結果を CSV 形式でエクスポートします。ローカルドライブの場所を提供します。
- または
- Copy to Clipboard** (クリップボードにコピー) をクリックして結果をクリップボードにコピーし、プレーンテキスト形式で保存します。

ConfigMgr データベースの Lifecycle Controller の資格情報の変更

ConfigMgr データベースの資格情報を変更するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 コンソール :
 - **Administration (管理)** → **Site Configuration (サイト設定)** → **Sites (サイト)** → **Right-click <site server name>** (<サイトサーバー名> を右クリック) → **Configure Site Components (サイトコンポーネント設定)** → **Out of Band Management (帯域外管理)** を選択します。

- Configuration Manager 2007 コンソールの場合：

1. **System Center Configuration Manager → Site Database (サイトデータベース) → Site Management (サイト管理) → <サイトサーバー名> → Site Settings (サイト設定) → Component Configuration (コンポーネントの設定)** を選択します。
2. **Component Configuration (コンポーネントの設定)** ウィンドウで、**Out of Band Management (帯域外管理)** を右クリックして **Properties (プロパティ)** を選択します。

Out of Band Management Component Properties (帯域外管理コンポーネントプロパティ) ウィンドウが表示されます。

2. **Dell Lifecycle Controller** タブをクリックします。
3. **Local User Account on Lifecycle Controllers (Lifecycle Controller 上のローカルユーザーアカウント)** 下で **Out of Band Management Component Properties (変更)** をクリックします。
4. **New Account Information (新しいアカウント情報)** ウィンドウで、新しいユーザー名と新しいパスワードを入力します。新しいパスワードを確認して **OK** をクリックします。

Configuration Manager データベースで新しいユーザー名とパスワードの資格情報がアップデートされます。

コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート

コレクションの Lifecycle Controller ログを読み取り可能な形式で表示したり、ログを Unified Naming Convention (UNC) または Common Internet File System (CIFS) 共有内に .CSV ファイル形式で保存またはエクスポートしたりできます。

コレクションの Lifecycle Controller ログを表示するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections (デバイスコレクション)** を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理) → Collections (コレクション)** を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller → Launch Config Utility (設定ユーティリティの起動)** を選択します。

2. **View Lifecycle Controller Logs (Lifecycle Controller ログの表示)** オプションを選択します。

コレクションのログファイルの表示およびエクスポートの手順は、単体システムのログファイルの表示とエクスポートに似ています。

「[Lifecycle Controller ログの表示](#)」の手順 2～7 に従います。

デフォルトで、コレクション内の各システムのログのうち最新 **100** のログが画面に表示されます。たとえば、コレクションに **10** システムある場合、画面には **1,000** のログファイルが表示されます。



メモ: Display (表示) ドロップダウンリストの数字は、常にコレクションの合計数です。たとえば、コレクションに **10** システムある場合、ドロップダウンリストには **1000、2500、5000、およびすべて** が表示されます。

コレクションのプラットフォーム復元

設定ユーティリティのこのオプションを使って、次のタスクを実行することができます。

- コレクション内のシステムプロファイルのエクスポート。詳細については、「[コレクション内のシステムプロファイルのエクスポート](#)」を参照してください。
- コレクション内のシステムプロファイルのインポート。詳細については、「[コレクション内のシステムプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

- コレクションのプロファイルの管理。
- コレクションの部品交換プロパティの設定。詳細については、「[コレクションの部品交換プロパティの設定](#)」を参照してください。

コレクション内のシステムプロファイルのエクスポート

このオプションを使って、コレクション内のすべてのシステムのシステム設定をバックアップすることができます。

コレクションのプラットフォームの復元 画面を起動するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections (コレクション)** を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility (設定ユーティリティの起動)** を選択します。
2. **Platform Restore** (プラットフォームの復元) オプションを選択します。
コレクションのシステム設定をバックアップする手順は、単体システムのシステム設定をバックアップする手順と似ています。
3. 「[システムプロファイルのエクスポート](#)」の手順 1～6 に従います。

コレクションのバックアップファイルが作成される場合、各システムのバックアップファイルは指定したプレフィックスとシステムのサービスタグで作成されます。この目的は、復元プロセスを容易にするために作成されたバックアップファイルを管理することです。

コレクション内のシステムプロファイルのインポート

作成したシステムプロファイル/バックアップファイルをインポートすることができます。このオプションは、コレクション内のシステムのバックアップイメージ/プロファイルを作成した場合にのみ適用可能です。コレクションの **Platform Restore** (プラットフォームの復元) 画面を起動するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections (コレクション)** を選択します。

All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility (設定ユーティリティの起動)** を選択します。
2. **Platform Restore** (プラットフォームの復元) オプションを選択します。
コレクションのバックアップファイルのインポート手順は、単体システムのバックアップファイルのインポート手順と似ています。
3. 「[システムプロファイルのインポート](#)」の手順 2～6 に従います。
バックアップファイルが存在するシステムのリストがグリッドに表示されます。
4. バックアップファイルをインポートしたいシステムを選択して、**Next** (次へ) をクリックします。
タスクが **Task Viewer** に送信されます。[Task Viewer](#) を起動してタスクのステータスを表示できます。



メモ: 有効なバックアップファイルがどのシステムのネットワーク共有場所にもない場合、システムは **バックアップファイル** 列に **No** と示された状態でグリッドに表示され、チェックボックスは無効になります。

コレクションの部品交換プロパティの設定

システムのコレクションに部品交換プロパティを設定する手順は、単体システムのプロパティを設定する手順に似ています。ただし、システムのコレクションの有効なライセンスの確認は、他のプロパティの設定を完了し、タスクを送信した後に実行されます。

ユーティリティは、PowerEdge 11G サーバーの場合にシステムの Lifecycle Controller にある Dell vFlash SD カードの有効なライセンスを確認し、PowerEdge 12G サーバーの場合にエンタープライズライセンスを確認します。

コレクションのプラットフォームの復元 画面を起動するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections** を選択します。
All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (設定ユーティリティの起動) を選択します
2. **Platform Restore** (プラットフォームの復元) オプションを選択します
部品交換プロパティの設定の詳細については、「[システムの部品交換プロパティの設定](#)」を参照してください。

NIC または CNA プロファイルのコレクション内システムとの比較

この機能を使用すると、NIC/CNA プロファイルがシステムにどのように適用されているかを示す比較レポートを生成し、ターゲットシステムとのすべての不一致を特定できます。

比較レポートを生成するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections** (デバイスコレクション) を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management (コンピュータ管理)** → **Collections (コレクション)** を選択します。
All Dell Lifecycle Controller Servers (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (設定ユーティリティの起動) を選択します。
2. **Network Adapter Comparison Report** (ネットワークアダプタ比較レポート) オプションを選択します。
3. **Network Adapter Comparison Report** (ネットワークアダプタ比較レポート) 画面で、**Browse** (参照) をクリックし、コレクションに適用された NIC/CNA プロファイルファイルを選択します。
プログレスバーによって、ターゲットシステムがスキャンされ、比較レポートが生成中であることが示されます。
4. 比較レポートの生成後は、次の色が表示されます。
 - **白色** - 適用されたプロファイルとターゲットシステムのプロファイルが一致していることを示します。
 - **赤色** - プロファイルをターゲットシステムに適用したときに不一致があったことを示します。
 - **灰色** - 適用されたプロファイルが設定されていなかったか、属性がターゲットシステムで不明であることを示します。

次の詳細も表示されます。

- **Target System (ターゲットシステム)** - プロファイルの比較対象となるターゲットシステムの名前。

- **Target Adapter (ターゲットアダプタ)** - ターゲットシステムに存在するアダプタのタイプ。ターゲットシステムには複数のアダプタがある場合があります。
 - **Configuration Applied (適用された設定)** - ターゲットシステムに適用された設定。
5. 比較レポートで任意のレコードを選択し、**View Details** (詳細の表示) をクリックして、**Port Comparison** (ポートの比較) の詳細を表示します。システムのポートの詳細が表示されます。色分けは、**Comparison Report** (比較レポート) 画面と似ています。手順 4 を参照してください。
 6. ポートを選択し、**View Details** (詳細の表示) をクリックして、**Personality Comparison** (パーソナリティ比較) の詳細を表示します。以下の詳細が表示されます。
 - **Partition (パーティション)** - レポートのパーティション番号。
 - **Personality (パーソナリティ)** - パーティション上にあるターゲットシステムの元のパーソナリティ。
 - **Personality Applied (適用されたパーソナリティ)** - NIC または CNA プロファイルからパーティションに適用されたパーソナリティ。
 - **Min. Bandwidth (最小帯域幅)** - パーティションで利用できる最小帯域幅。
 - **Min. Bandwidth Applied (適用された最小帯域幅)** - パーティションに適用された最小帯域幅。
 - **Max. Bandwidth (最大帯域幅)** - パーティションで利用できる最大帯域幅。
 - **Max. Bandwidth Applied (適用された最大帯域幅)** - パーティションに適用された最大帯域幅。
- 色分けは、**Comparison Report** (比較レポート) 画面と似ています。詳細については、手順 4 を参照してください。
7. 任意のパーティションを選択し、**View Port Details** (ポート詳細の表示) をクリックします。ポート詳細画面に、NIC および iSCSI 属性詳細が表示されます。次の詳細が表示されます。
 - **Attribute (属性)** - NIC または iSCSI 属性のリスト。
 - **System Value (システム値)** - システムに存在していた属性値。
 - **Value Applied (適用された値)** - プロファイルから適用された属性値。

サーバーのインポートユーティリティの使用

本項では、サーバーのインポートユーティリティを使用して実行できるさまざまなアクティビティについて説明します。このユーティリティは、Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration のインストール時にインストールされます。ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration のインストールの詳細については、『Installation Guide』（インストールガイド）を参照してください。

サーバーのインポートユーティリティでは、次の操作が可能です。

- ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で自動検出されず、すでに ConfigMgr 環境の一部である Dell サーバーをインポートします。インポート後に、これらのサーバーは **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) → **Dell Imported Servers** (インポートされた Dell サーバー) 下に表示され、ユーザーは ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration 機能を使ってさまざまな操作を実行できます。詳細については、「[Dell サーバーのインポート](#)」を参照してください。
- .CSV 形式で保存された外部ファイルからシステム変数をコレクション内のシステムにインポートします。これらの変数は、オペレーティングシステムをサーバーに導入するタスクシーケンスの作成時に使用されます。詳細については、「[システム変数のインポート](#)」を参照してください。

Dell サーバーのインポート

Dell Connections License Manager で、DLCI 用のライセンスが DLCI へのインポートに設定されたシステムの数をサポートするために十分であることを確認します。十分でないときは、インポート後に、ライセンスに割り当てられていないサーバーがオペレーティングシステムがターゲットサーバーに導入されている場合には、それらが管理対象外 Dell Lifecycle Controller (OS 導入済み) 下にグループ化され、オペレーティングシステムが導入されていない場合には管理対象外 Dell Lifecycle Controller (OS 不明) 下にグループ化されます。

DLCI がこれらの管理対象外サーバーで実行できるタスクはありません。

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration で自動検出されない Dell サーバーをインポートするには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager で次の作業を行います。

- Configuration Manager 2012 コンソールの場合：
 1. **Assets and Compliance** (資産およびコンプライアンス) に移動し、**Devices** (デバイス) を右クリックします。
 2. **Dell Lifecycle Controller** → **Import Dell PowerEdge Server** (Dell PowerEdge サーバーのインポート) を選択します。
 - Configuration Manager 2007 コンソールの場合：
 1. **Operating System Deployment** (オペレーティングシステムの導入) → **Computer Associates** (コンピュータの関連付け) に移動します。
 2. **Computer Association** (コンピュータの関連付け) を右クリックし、メニューから **Import Dell Servers** (Dell サーバーのインポート) を選択します。
2. **Import Dell Servers** (Dell サーバーのインポート) 画面で、**Import Dell Servers** (Dell サーバーのインポート) オプションを選択します。

3. **Specify an iDRAC IP address range** (iDRAC IP アドレス範囲を指定する) を選択し、IP アドレス範囲を提供します。これは、インポートするサーバーの **Integrated Dell Remote Access Controller IP** アドレスの範囲です。

カンマまたは新しい行で区切られたファイルから iDRAC IP アドレスを指定するを選択することもできます。参照をクリックしてファイルを .CSV 形式で保存した場所に移動します。

.CSV ファイルで、IP アドレスを次のいずれかの形式でリストします。

- カンマを区切り文字として使用して、IP アドレスを区切ります (たとえば、172.16.2.5,172.16.2.38,172.16.1.1)。
- IP アドレスを別の行で指定します。たとえば、以下のようになります。
 - 新しい行 : 172.16.1.1
 - 新しい行 : 172.16.1.5
 - 新しい行 : 172.16.1.45

4. **次へ** をクリックします。

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) の認証プロセスで、指定した各 iDRAC IP アドレスに対して **Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration** をインストールする場合に提供した iDRAC 資格情報が検証されます。グリッドに IP アドレス、サーバー名、および認証のステータスが表示されます。

Active Directory で認証されたユーザー資格情報を入力することができます。

指定した iDRAC ユーザーが、インポートするどのサーバーの **Integrated Dell Remote Access Controller** にも存在しない場合は、ステータスが **認証失敗** と表示され、サーバーはインポートできません。

Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用するには、**Dell Connections License Manager** で利用可能なライセンスが必要です。ライセンスがないとき、サーバーは、オペレーティングシステムがターゲットサーバーに導入されている場合には管理対象外 **Dell Lifecycle Controller (OS 導入済み)** 下にグループ化され、オペレーティングシステムが導入されていない場合には管理対象外 **Dell Lifecycle Controller (OS 不明)** 下にグループ化されます。

ターゲットサーバーが削除され、その IP が他のサーバーに割り当てられる場合、ターゲットサーバーに割り当てられていたライセンスは不適切に使用されていることになります。

ライセンス情報 **ライセンスされたノード** : 提供されるノード数。 **使用中ノード** : サーバーに割り当てられたノード数。 **残りのノード** : 割り当て可能なノード数。

管理対象サーバーは緑色で表示され、管理対象外サーバーは白色で表示されます。

5. **Next (次へ)** をクリックし、インポートするサーバーを選択します。デフォルトでは、認証ステータスが **Success (成功)** のすべてのシステムが選択されます。
6. **Save As (名前を付けて保存)** をクリックして、レポートを .CSV ファイルとして任意の場所に保存します。
7. インポートされるサーバーを表示するターゲットコレクションを指定し、**Next (次へ)** をクリックします。
8. **Save As (名前を付けて保存)** をクリックして、レポートを .CSV ファイルとして任意の場所に保存します。
9. インポートプロセスが完了したら、**Close (閉じる)** をクリックしてユーティリティを閉じます。

ライセンスの取得

前提条件

- **Dell Connection License Manager** には、必要な数のノードの **DLCI** ライセンスが含まれている必要があります。
- コレクションには、少なくとも 1 つのサーバーが含まれる必要があります。

ライセンスを取得するには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager コンソールで次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 の場合は、**Device Collections**（デバイスコレクション）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 の場合は、**Computer Management**（コンピュータ管理）→ **Collections**（コレクション）を選択します。
2. **All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックして、**Dell Lifecycle Controller, Launch Acquire License Utility**（ライセンス取得ユーティリティの起動）を選択します。
3. **Dell Lifecycle Controller Integration Acquire License Utility**（Dell Lifecycle Controller Integration ライセンス取得ユーティリティ）で、**Acquire License for Servers**（サーバー用ライセンスの取得）をクリックします。
4. **Acquire License for Servers**（サーバー用ライセンスの取得）で **List of valid Dell Lifecycle Controller enabled servers in the collection**（コレクションにおける Dell Lifecycle Controller 対応サーバーリスト）からライセンスを割り当てるサーバーを選択し、**Next**（次へ）をクリックします。

ライセンス付与により、割り当てに使用できるノードの情報が提供されます。管理対象サーバーは緑色で表示され、管理対象外サーバーは白色で表示されます。
5. **Close**（閉じる）をクリックします。

システム変数のインポート

.CSV 形式で保存された外部ファイルからシステム変数をインポートするには、次の手順を実行します。

1. Configuration Manager で次の作業を行います。
 - Configuration Manager 2012 コンソールの場合：
 1. **Assets and Compliance**（資産およびコンプライアンス）に移動し、**Devices**（デバイス）を右クリックします。
 2. **Dell Lifecycle Controller** → **Import Dell PowerEdge Server**（Dell PowerEdge サーバーのインポート）を選択します。
 - Configuration Manager 2007 コンソールの場合：
 1. **Operating System Deployment**（オペレーティングシステムの導入）→ **Computer Associates**（コンピュータの関連付け）に移動します。
 2. **Computer Association**（コンピュータの関連付け）を右クリックし、メニューから **Import Dell Servers**（Dell サーバーのインポート）を選択します。
2. **Import Dell Servers**（Dell サーバーのインポート）画面で、**Import System Variables**（システム変数のインポート）オプションを選択します。
3. **Browse**（参照）をクリックして、変数を含む **.CSV** ファイルを選択します。
4. **次へ**をクリックします。

画面に、すでにシステムに存在する変数値と .CSV ファイルに存在する変数値の比較レポートが表示されます。

変数は、ファイルにおいて次の形式で定義する必要があります。

```
<System Name>, <variable1 name> = <variable1 value>, <variable2 name>=<variable2 value>. For Example: <System Name1>,
InstallOSVer=Win2K3,CountDisks=5<System Name2>,
InstallOSVer=Win2K8,CountDisks=4<System Name3>,
CountDisks=4,RAIDController=H700
```
5. **次へ**をクリックします。

画面に、すでにシステムに存在する変数値と .CSV ファイルに存在する変数値の比較レポートが表示されます。

- **Name (名前)** — システムの名前。
- **Variable Name (変数名)** — 変数の名前。
- **Value in the .CSV file (.CSV ファイル内の値)** - .CSV ファイル内の変数の値。変数がファイルにない場合、この列には NA という値が表示されます。
- **Value in the System (システム内の値)** - システム内の変数の値。変数がシステムにない場合、この列には NA という値が表示されます。
- **Action (処置)** - この変数に対して行われる処置。この処置では、.CSV ファイルにある変数および値が常に優先されます。

表 5. 処置と説明

処置	説明
ADD (追加)	変数をターゲットシステムに追加します。変数がファイルに存在し、システムで使用できないことを示します。
DELETE (削除)	変数をターゲットシステムから削除します。変数がファイルに存在せず、システムで使用できることを示します。
UPDATE (アップデート)	ターゲットシステムの変数を .CSV ファイルの値でアップデートします。システムの変数をファイルの変数で置き換えることを示します。
NONE (なし)	処置は行われません。
該当なし	適用なし

6. インポートしたい変数を選択します。
デフォルトでは、グリッドで **ADD** (追加) および **UPDATE** (アップデート) アクションがあるレコードが選択されます。**DELETE** (削除) アクションがあるレコードは選択されません。レコードをシステムから削除する場合は、レコードを選択する必要があります。
また、システム名に基づいてグリッドでレコードをフィルタすることもできます。
7. **次へ** をクリックします。
8. **Save As** (名前を付けて保存) をクリックして、レポートを .CSV ファイルとして任意の場所に保存します。
9. インポートプロセスが完了したら、**Close** (閉じる) をクリックしてユーティリティを閉じます。

System Viewer ユーティリティの使用

本章では、**System Viewer** ユーティリティで実行できる操作について説明します。

System Viewer ユーティリティを使用して次の操作を実行できます。

- ハードウェア設定の表示および編集。詳細については、「[BIOS 設定の表示と編集](#)」を参照してください。
- RAID 設定の表示および編集。詳細については、「[RAID の表示と設定](#)」を参照してください。
- システムの **Integrated Dell Remote Access Controller** 設定プロファイルの作成および編集。詳細については、「[システム用 iDRAC プロファイルの設定](#)」を参照してください。
- NIC や CNA などのネットワークアダプタの設定の作成と、プロファイルへの設定の保存。詳細については、「[システムの NIC および CNA の設定](#)」を参照してください。
- 現在のファームウェアインベントリの表示、ベースラインとの比較、およびファームウェアのアップデート。詳細については、「[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)」を参照してください。
- ハードウェア設定プロファイルの比較。詳細については、「[ハードウェア構成プロファイルの比較](#)」を参照してください。
- Lifecycle Controller ログの表示およびエクスポート。詳細については、「[Lifecycle Controller ログの表示](#)」を参照してください。
- システムのハードウェアインベントリの表示。詳細については、「[システムのハードウェアインベントリの表示](#)」を参照してください。



メモ: 直接編集することができるのはハードウェア設定および RAID 設定のプロファイルだけです。システム構成を直接編集することはできません。

- 次の操作を含む、プラットフォームの復元に関するタスクを実行します。
 - 外部の場所へのシステムプロファイルのエクスポート。
 - 外部の場所からの保存済みシステムプロファイルのインポート。
 - システムの部品交換プロパティの設定。

詳細については、「[システムのプラットフォームの復元](#)」を参照してください。

- このリリースの **Dell Lifecycle Controller Integration** にはライセンスが付与され、ライセンス付与は資格に基づきます。このリリースの **Dell Lifecycle Controller Integration** に利用可能なライセンスは、50、200、および無制限のノードライセンスです。

ライセンスがなくてもサーバーを検出することはできますが、このリリースの **Dell Lifecycle Controller Integration** で利用可能な機能を使用するには有効なライセンスが必要です。また、有効なライセンスがある場合でも、ライセンスに指定された数を超えるサーバーを設定することはできません。ただし、無制限ノードライセンスがある場合は、任意の数のサーバーを検出および設定できます。

BIOS 設定の表示と編集

この機能を使って、システムまたはシステムコレクションの現在の **BIOS** 設定を表示および編集し、プロファイルとして保存できます。



メモ: 複数のターゲットシステムへの起動順序の適用は、それらのターゲットシステムの起動デバイスの数が、プロファイルに示されている数以下の場合のみ可能です。

新規プロファイルの作成

新しいプロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. **BIOS Configuration** (BIOS 設定) 画面で **Create a New Profile** (新規プロファイルの作成) を選択し、**Next** (次へ) をクリックします。
BIOS Attributes (BIOS 属性) タブに、システムの BIOS 属性と現在の設定が表示されます。**Boot Sequence** (起動順序) タブに、システムの起動順序の情報が表示されます。
2. **BIOS Attributes** (BIOS 属性) タブで属性のチェックボックスをオンにして、プロファイルに含める属性を選択します。**Select All** (すべて選択) をオンにすると、リストのすべての属性が選択されます。
 **メモ:** プロファイルの BIOS 属性をオフのままにすることができます。プロファイルのどの BIOS 属性も選択しない場合は、プロファイルのインポート時に起動順序の情報のみが対象になります。
3. **Save As Profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、プロファイルを XML ファイルとして保存します。

既存のプロファイルの編集

既存のプロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. **BIOS Configuration** (BIOS 設定) 画面で、**Edit an Existing Profile** (既存プロファイルの編集) を選択し、**Browse** (参照) をクリックしてプロファイルを参照します。
2. 編集するプロファイルを選択し、**Next** (次へ) をクリックします。
BIOS Attributes (BIOS 属性) タブに、選択したプロファイルの BIOS 属性が表示されます。
3. 編集する属性を選択し、**Edit Attribute** (属性の編集) をクリックします。
Custom Attribute Editor (カスタム属性エディタ) で、**Attribute Name** (属性名) フィールドにすべての属性のドロップダウンリストが表示されます。
4. 編集する属性を選択し、必要な変更を行います。
5. **OK** をクリックして変更内容を保存し、**Custom Attribute** (カスタム属性エディタ) を終了します。
 **メモ:** 行った変更をリセットするには、**Reset** (リセット) をクリックします。

新しい属性の追加

新しい属性を追加するには、次の手順を実行します。

1. **BIOS Configuration** (BIOS 設定) 画面で、**Create a New Profile** (新規プロファイルの作成) または **Edit an Existing Profile** (既存のプロファイルの編集) を選択し、**Browse** (参照) をクリックしてプロファイルを参照します。
2. **BIOS Attributes** (BIOS 属性) タブで **Add Attribute** (属性の追加) をクリックします。
3. **Custom Attribute Editor** (カスタム属性エディタ) で、**Attribute Name** (属性名) フィールドに属性名を入力します。このフィールドの値の入力は必須です。
4. 追加する属性のタイプを、**Attribute Type** (属性タイプ) ドロップダウンリストから選択します。属性には、次の 3 つの種類があります。
 - **Enum Attribute** (列挙型属性) - 複数の値があるコンボボックスを表示します。少なくとも 1 つの値を選択する必要があります。
 - **Text Attribute** (テキスト型属性) - テキスト値があるフィールドを表示します。このフィールドは空にできます。
 - **Numeric Attribute** (数値型属性) - 整数値があるフィールドを表示します。このフィールドは空にできません。
5. 選択した属性の種類に基づいて属性の値を入力します。ここでは、属性タイプとして **Enum Attribute** (列挙型属性) を選択したことを前提とします。

- 値を追加するには、列挙する属性値を **Possible Value**（可能な値）フィールドに入力して、**Add**（追加）をクリックします。
 - 属性の値を更新するには、更新したい値を選択し、**Possible Values**（可能な値）フィールドで必要な変更を行った後、**Update**（アップデート）をクリックします。
 - 値を削除するには、値を選択し、**Delete**（削除）をクリックします。確認を求めるダイアログボックスが表示されます。**Yes**（はい）をクリックして値を削除します。
6. **OK** をクリックして **Custom Attribute Editor**（カスタム属性エディタ）を終了し、**BIOS Attributes**（BIOS 属性）タブに戻ります。

既存の BIOS 属性の編集

既存の BIOS 属性を編集するには、「[既存のプロファイルの編集](#)」の手順 2～5 に従ってください。

BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序の変更

BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序を変更するには、次の手順を行ってください。

1. **BIOS Configuration**（BIOS 設定）画面で、**Create a New Profile**（新規プロファイルの作成）または **Edit an Existing Profile**（既存のプロファイルの編集）を選択し、**Browse**（参照）をクリックしてプロファイルを参照します。
2. **Boot Sequence**（起動順序）タブをクリックします。
現在の BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序が表示されます。
3. **Move Up**（上へ移動）および **Move Down**（下へ移動）ボタンを使用して、BIOS 起動順序またはハードディスクドライブの順序を変更します。
4. **OK** をクリックして、変更を保存します。



メモ: 行った変更をリセットするには、**Reset**（リセット）をクリックします。

RAID の表示と設定

この機能を使用すると、サーバーの RAID を表示し、設定することができます。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**RAID Configuration**（RAID 設定）をクリックします。
RAID Configuration（RAID 設定）画面に、お使いのシステムの RAID 情報（仮想ディスクの数、コントローラ ID、RAID レベル、物理ディスクなど）が表示されます。
2. **Create RAID profile**（RAID プロファイルの作成）をクリックし、**Array Builder** を使用して新しい RAID 設定プロファイルを作成します。Array Builder の使用の詳細については、「[Array Builder の使用](#)」を参照してください。

システム用 iDRAC プロファイルの設定

この機能を使用すると、iDRAC 設定を定義および保存し、オペレーティングシステムの導入中にワークフローの一貫としてプロファイルをコレクションに適用することができます。

システムの iDRAC プロファイルは、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成または編集できます。

Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成

iDRAC プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**RAID Configuration**（RAID 設定）をクリックします。

Integrated Dell Remote Access Controller 設定オプションが表示されます。

2. **Create a New Profile** (新規プロファイルの作成) を選択して、**Next** (次へ) をクリックします。
3. **Network Configuration** (ネットワークの設定) タブをクリックします。
4. 設定する属性をドロップダウンリストから選択します。次の属性を設定することができます。

- LAN 設定
- LAN 詳細設定
- 共通 IP 設定
- IPv4 設定



メモ: 上記属性に設定可能な各種パラメータの詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『*Dell Lifecycle Controller Version 1.6 User's Guide*』(Dell Lifecycle Controller バージョン 1.6 ユーザーズガイド) および『*Dell Lifecycle Controller 2 Version 1.4.0*』(Dell Lifecycle Controller 2 バージョン 1.4.0) を参照してください。

5. **ユーザー** タブをクリックします。

グリッドがシステムから Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーのリストを取得し、表示します。

6. ユーザーアカウントを追加するか、既存のユーザーアカウントを編集できます。Integrated Dell Remote Access Controller には 16 のユーザーがあり、そのうち 15 のユーザーを設定できます。

- 新規のユーザーアカウントを追加するには、設定されていないユーザーアカウントを選択します。
- ユーザーアカウントを編集するには、グリッドからアカウントを選択し、**Edit** (編集) をクリックするか、ユーザーアカウントをダブルクリックします。

Edit User (ユーザーの編集) 画面が表示されます。



メモ: Dell Lifecycle Controller Integration がシステムの Integrated Dell Remote Access Controller にアクセスするために使用するユーザーアカウントは編集できません。

7. 次の詳細を指定します。

- **General Details (一般詳細)** - ユーザー名とパスワードを入力します。ユーザーアカウントを作成または編集する場合は、パスワードを指定する必要があります。
- **IPMI LAN user Privilege granted (付与された IPMI LAN ユーザー権限)** - ドロップダウンリストからユーザータイプを選択して、IPMI LAN ユーザー権限を付与します。
- **Other Privilege (その他の権限)** - ドロップダウンリストから Integrated Dell Remote Access Controller グループを選択し、グループに割り当てる権限を選択します。
権限についての詳細は、dell.com/support/manuals で入手可能な『*Dell Lifecycle Controller Version 1.6 User's Guide*』(Dell Lifecycle Controller バージョン 1.6 ユーザーズガイド) および『*Dell Lifecycle Controller 2 Version 1.4.0*』(Dell Lifecycle Controller 2 バージョン 1.4.0) を参照してください。

8. **OK** をクリックして、ユーザーアカウントの設定を保存し、**Users** (ユーザー) タブに戻ります。
9. **Save As Profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、Integrated Dell Remote Access Controller 設定プロファイルを保存します。

Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの編集

iDRAC プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**iDRAC Configuration** (iDRAC 設定) をクリックします。
iDRAC 設定のオプションが表示されます。
2. **Edit an Existing Profile** (既存プロファイルの編集) を選択します。
3. **Browse** (参照) をクリックして Integrated Dell Remote Access Controller 設定プロファイルを保存した場所に移動し、**Next** (次へ) をクリックします。
4. **Network Configuration** (ネットワーク設定) タブで、編集する属性を選択します。



メモ: 上記属性に設定可能な各種パラメータの詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Lifecycle Controller Version 1.6 User's Guide』（Dell Lifecycle Controller バージョン 1.6 ユーザーズガイド）および『Dell Lifecycle Controller 2 Version 1.4.0』（Dell Lifecycle Controller 2 バージョン 1.4.0）を参照してください。

5. **Users**（ユーザー）タブをクリックします。
グリッドが、既存プロファイルの Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーのリストを取得し、表示します。
6. ユーザーアカウントを追加するか、既存のユーザーアカウントを編集できます。詳細については、「[Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成](#)」の手順 6~7 を参照してください。
7. **Save As Profile**（プロファイルとして保存）をクリックして、変更した Integrated Dell Remote Access Controller 設定プロファイルを保存します。

システムの NIC および CNA の設定

この機能を使用すると、システムの特定のネットワークインタフェースカード（NIC）または統合ネットワークアダプタ（CNA）の異なる属性を設定し、プロファイルに保存できます。システムの NIC または CNA プロファイルを作成できますが、プロファイルはコレクションのみに適用できます。この機能では、コレクションで NIC パーティションを作成できます。

各 NIC タイプは、テンプレートに関連付けられています。このテンプレートには特定のインスタンス情報は含まれておらず、テンプレートは特定のシステムに依存しません。たとえば、**DualPort-QuadPartition-NIC** テンプレートでは、CNA の 8 つのパーティションをさまざまな役割に設定できます。

Lifecycle Controller 対応の NIC については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Lifecycle Controller Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled User's Guide』（Dell Lifecycle Controller Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled ユーザーズガイド）を参照してください。

NIC または CNA プロファイルの作成

NIC/CNA プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Network Adapter Configuration**（ネットワークアダプタ設定）をクリックします。
新規プロファイルを作成するオプション、既存プロファイルを編集するオプション、またはコレクションをスキャンしてアダプタを検出するオプションが表示されます。
2. **Create a New Profile**（新規プロファイルの作成）を選択して、**Next**（次へ）をクリックします。
Network Adapter Configuration（ネットワークアダプタの設定）画面が表示されます。
3. **Add**（追加）をクリックしてアダプタを追加します。
4. **Add Adapter**（アダプタの追加）ダイアログボックスで、次の操作を行います。
 - **Adapter Type**（アダプタタイプ）をドロップダウンメニューから選択します。
 - アダプタの場所を選択し、スロット番号を指定します。
 - **OK** をクリックします。
これでそのアダプタが **Network Adapter Configuration**（ネットワークアダプタ設定）画面に追加されました。
5. プロファイルからアダプタのいずれかを削除したい場合は、そのアダプタを選択して **Remove**（削除）をクリックします。
6. アダプタを選択し、**Configure**（設定）をクリックしてアダプタを設定します。アダプタの設定の詳細については、「[アダプタの設定](#)」を参照してください。
7. アダプタの設定が終了したら、**Save as profile**（プロファイルとして保存）をクリックして NIC プロファイルを保存します。

プロファイルのどのアダプタも設定しなかった場合は、次のメッセージが表示されます。

No Adapter is configured. Please configure before saving.

OK をクリックして、プロファイルを保存する前に一部のアダプタを設定します。

すべてではなく一部のアダプタを設定した場合は、次のメッセージが表示されます。

You have not configured all adapters and settings. Are you sure you want to save the profile?

OK をクリックしてプロファイルを保存するか、**Cancel** (キャンセル) をクリックしてすべてのアダプタの設定を行います。

コレクションのスキャン

コレクションをスキャンし、設定されたアダプタを特定して、編集のために **NIC** または **CNA** プロファイルをリストできます。コレクションをスキャンするには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタ設定) をクリックします。
2. **Scan collection to identify adapters** (コレクションをスキャンしてアダプタを検出) を選択し、**Next** (次へ) をクリックします。
 **メモ:** ユーティリティがコレクションをスキャンする前に、プロセスに時間がかかる場合があることを示す警告が表示されます。**Cancel** (キャンセル) をクリックすると、スキャンプロセスは中止され、**Scan collection to identify adapters** (コレクションをスキャンしてアダプタを検出) オプションが選択されません。
3. ユーティリティはコレクションをスキャンし、プログレスバーがタスクの進捗状況を示します。タスクの完了後に **Next** (次へ) をクリックします。
4. **Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタの設定) 画面にコレクションのアダプタが表示されます。
5. 設定するアダプタを選択し、**Configure** (設定) をクリックします。詳細については、「[アダプタの設定](#)」を参照してください。
6. プロファイルからアダプタのいずれかを削除したい場合は、そのアダプタを選択して **Remove** (削除) をクリックします。
7. また、**Add** (追加) をクリックしてプロファイルにアダプタを追加することもできます。詳細については、「[NIC または CNA プロファイルの作成](#)」の手順 4 を参照してください。
8. **Save as profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、変更した **NIC** プロファイルを保存します。

アダプタの設定

アダプタを設定するには、次の手順を実行します。

1. **Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタの設定) 画面でアダプタを選択し、**Configure** (設定) をクリックします。
Adapter Configuration (アダプタの設定) ダイアログボックスが表示されます。
2. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **Configure adapter settings** (アダプタの設定) — 設定を行います。
 - **Copy settings from adapter** (設定をアダプタからコピー) —すでに設定済みのアダプタから設定をコピーします。
3. **Configure** (設定) をクリックします。
Adapter Configuration (アダプタの設定) ダイアログボックスが表示されます。
4. 設定するアダプタを選択し、**Configure** (設定) をクリックします。
5. 次のオプションのいずれかを選択します。

- **Configure port settings** (ポートの設定) - ポートを設定します。ポートの設定を手動で行う場合は、次の手順に進んでください。
 - **Copy settings from port** (設定をポートからコピー) - すでに設定済みのポートからポート設定をコピーします。ポート設定をコピーする場合は、手順 7 に進みます。
6. ポートのパーティションごとにパーソナリティを選択し、帯域幅を入力して、パーソナリティごとに設定を行う必要があります。1つのポートには最大 4 つまでのパーティションを設定できます (各パーティションには 1 つのパーソナリティが割り当てられます)。
- Personalities and Settings** (パーソナリティと設定) で、各パーティションに対してパーソナリティを選択し、最小および最大帯域幅を設定します。以下のいずれかのオプションを選択できます。
- **NIC**
 - **iSCSI**
 - **FCoE**
-  **メモ:** パーソナリティは CNA のみに選択でき、NIC には選択できません。
7. **Port Settings** (ポートの設定) をクリックして NIC および iSCSI パラメータを設定します。詳細については、「[NIC および iSCSI パラメータの設定](#)」を参照してください。
8. **OK** をクリックして設定を保存します。

NIC および iSCSI パラメータの設定

ポートの設定画面で、NIC および iSCSI パラメータを設定することができます。

NIC および iSCSI パラメータを設定するには、次の手順を実行します。

1. **Port Settings** (ポートの設定) 画面の **NIC** タブで、次のパラメータを指定します。
 - **Select All** (すべて選択) - NIC で利用可能なすべてのオプションをチェックする場合に選択します。
 - **Boot protocol** (起動プロトコル) - システムの起動プロトコルを選択します。PXE、iSCSI、または FCoE から選択できます。
 - **Wake on LAN** - LAN からシステムをオンにする場合に選択します。このオプションを有効または無効にすることを選択できます。
 - **Wake on LAN link speed** (Wake on LAN リンク速度) - Wake on LAN リンク速度をドロップダウンリストから指定します。
 - **VLAN mode** (VLAN モード) - システムが同じネットワークスイッチにないときにシステムを VLAN に追加する場合に選択します。このオプションを有効または無効にすることを選択できます。
 - **Link speed** (リンク速度) - NIC リンク速度を選択します。
 - **Flow Control** (フロー制御) - データフロー制御を選択します。
 - **IP auto configuration** (IP の自動設定) - システムの IP アドレスを自動的に設定する場合に選択します。このオプションを有効または無効にすることを選択できます。
 - **SRIOV configuration** (SRIOV 設定) - システムの **Single Root Input/Output Virtualization** を設定する場合に選択します。このオプションを有効または無効にすることを選択できます。

OK をクリックして設定を保存します。
2. **iSCSI** タブをクリックして、次のパラメータを指定します。
 - **CHAP authentication** (CHAP 認証) - iSCSI ターゲットを検出するときに、システムのチャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) を有効または無効にします。このオプションを有効にする場合は、iSCSI イニシエータパラメータの設定画面で **CHAP ID** と **CHAP シークレット** を入力する必要があります。
 - **CHAP mutual authentication** (CHAP 相互認証) - iSCSI ターゲットを検出するときに、ネットワーク内のシステム間の双方向 CHAP 認証を有効または無効にします。
 - **iSCSI via DHCP** (DHCP 経由の iSCSI) - DHCP を使用した iSCSI ターゲットの検出を有効または無効にします。

- **Windows Boot HBA Mode** (HBA モードでの Windows 起動) - この属性は、ホストオペレーティングシステムがソフトウェアイニシエータモードに設定されている場合は無効、HBA モードに設定されている場合は有効にします。このオプションは、**NetXtreme** アダプタで利用可能です。
- **Boot to Target** (ターゲットから起動) - この属性を有効または無効にします。このオプションを有効にすると、iSCSI 起動ホストソフトウェアは iSCSI ターゲットからの起動を試みます。
- **DHCP Vendor ID** (DHCP ベンダー ID) - このフィールドには DHCP ベンダー ID を指定します。DHCP Offer パケットのベンダークラス ID フィールドの内容がこのフィールドの値と一致する場合、iSCSI 起動ホストソフトウェアは必要な iSCSI 起動エクステンションを検索します。DHCP オプションにより iSCSI が無効な場合は、この値を設定する必要はありません。
- **LUN Busy Retry Count** (LUN ビジー再試行回数) - iSCSI ターゲット LUN がビジーの場合に iSCSI 起動イニシエータが接続を再試行する回数を設定します。

3. **OK** をクリックして設定を保存します。

NIC または CNA プロファイルの編集

NIC/CNA プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタ設定) をクリックします。
2. **Edit an Existing Profile** (既存プロファイルの編集) を選択します。
3. **Browse** (参照) をクリックして、NIC プロファイルを保存したロケーションに移動します。
4. .XML ファイルとして保存されたプロファイルを選択して、**Next** (次へ) をクリックします。
Network Adapter Configuration (ネットワークアダプタの設定) 画面に、プロファイルで設定したアダプタが表示されます。
5. 編集するアダプタを選択し、**Configure** (設定) をクリックします。アダプタの設定の詳細については、「[アダプタの設定](#)」を参照してください。
6. プロファイルからアダプタのいずれかを削除したい場合は、そのアダプタを選択して **Remove** (削除) をクリックします。
7. また、**Add** (追加) をクリックしてプロファイルにアダプタを追加することもできます。詳細については、「[NIC または CNA プロファイルの作成](#)」の手順 4 を参照してください。
8. **Save as profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、変更した NIC プロファイルを保存します。

ファームウェアインベントリの比較とアップデート

この機能を使用すると、特定のシステムの現在のファームウェアバージョンを表示、比較、およびアップデートできます。また、お使いのシステムと、他のシステム、**Dell FTP** サイト、またはデルサポートサイトからダウンロードした **PDK** カタログの **BIOS** およびファームウェアのバージョンを比較することもできます。

システムのファームウェアインベントリの比較およびアップデートを行うには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Firmware Inventory, Compare, and Update** (ファームウェアのインベントリ、比較、およびアップデート) をクリックします。
右ペインに、システムコンポーネントおよびそれらの現在のファームウェアのバージョンが表示されます。
2. **Export Profile** (プロファイルのエクスポート) をクリックして、ソフトウェアのインベントリ情報を XML 形式でエクスポートします。
3. **Next** (次へ) をクリックし、次のオプションのいずれかを選択して、サーバーコレクションのファームウェアインベントリと比較するためのベースラインを指定します。
 - **Dell PDK catalog** (**Dell PDK カタログ**) - ファームウェアインベントリの比較に使用する **Dell PDK** カタログを指定します。PDK を指定するには、次の手順を実行します。
 - **Browse** (参照) をクリックしてカタログを保存したファイルの場所に移動します。システムの **Dell Lifecycle Controller** がアクセスできる **CIFS** 共有上にカタログがあることを確認します。

Lifecycle Controller ログの表示

この機能を使用すると、Lifecycle Controller ログを読み取り可能な形式で表示し、.CSV ファイルに保存できます。Lifecycle Controller ログには、ファームウェアアップグレードの履歴、アップデートおよび構成の変更イベント、ユーザーのコメントなどの詳細情報が含まれます。

Lifecycle Controller ログを表示するには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) を選択します。**View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) 画面に以下のフィールドが表示されます。

- **Existing Share (既存の共有)** - \\<IP アドレス>\<共有> ファイル名という形式でファイルを保存する UNC または CIFS 共有を指定します。ファイル名はデフォルトで提供され、変更することはできません。この情報は、以降の表示のためにキャッシュされます。Lifecycle Controller ログファイルを表示する場合は、常に空の共有を指定することをお勧めします。既存の場所を使う場合は、その場所が空白であることを確認します。
- **Domain\Username** (ドメイン\ユーザー名) — Lifecycle Controller が UNC または CIFS 共有にアクセスするために必要な正しいドメインとユーザー名を指定します。
- **Password** (パスワード) — 正しいパスワードを指定します。

2. **次へ** をクリックします。

View Lifecycle Controller Logs (Lifecycle Controller ログの表示) 画面が表示されます。

画面には、デフォルトで最新 100 個のログが表示されます。表示されるログの数は、**Pause** (一時停止) をクリックするか、100 個のログすべてが画面に表示された後にのみ変更できます。次の詳細が表示されます。

表 6. Lifecycle Controller ログ詳細

列	説明
ホスト名	これは、Lifecycle Controller ログを表示するシステムのホスト名であり、単体システムではなくシステムのコレクションの場合にのみ表示されます。
No.	これはログの連続番号です。
カテゴリ	Lifecycle Controller ログのカテゴリ (設定サービス、iDRAC、インベントリなど)。
ID	これはエラーメッセージに関連付けられた ID です。ハイパーリンクをクリックすると、エラーの詳細情報と推奨アクションが表示されます。デルのサポートウェブサイト (dell.com/support/manuals) から最新のメッセージレジストリを定期的にダウンロードできます。詳細については、「 最新のメッセージレジストリのダウンロードおよびアップデート 」を参照してください。 ローカルメッセージレジストリで ID が不明な場合は、エラーが表示されるので、 dell.com/support/manuals から最新のメッセージレジストリファイルをダウンロードする必要があります。
説明	Lifecycle Controller ログのメッセージ / 説明。
タイムスタンプ	Lifecycle Controller ログ作成時の日付 / 時刻スタンプです。

表示するログファイルのデフォルトの数を設定できます。これは、グリッドに表示するログの最大数を定義するグローバル設定です。ログファイルのデフォルトの数を設定するには、次の手順を実行します。

- a. Configuration Manager 用 DLCI をインストールしたフォルダから **DLCSysview.exe.config** または **DLCCfgUtility.exe.config** を開きます。

- b. **MAX_LC_LOGS_TO_DISPLAY** パラメータを探し、数字を指定します。

Lifecycle Controller Logs Viewer で **All** (すべて) を選択すると、指定した数のログが表示されます。

3. 表示する記録数を指定した後、**View** (表示) をクリックします。



メモ: この手順は、レコード数をドロップダウンリストから選択せずに手動で入力する場合にのみ適用可能です。ドロップダウンリストからレコード数を選択した場合は、レコードが自動的に表示されます。一度に表示できるレコード数より小さい値を指定することはできません。少ない数のレコードを表示する場合は、1つのシステムあたりのレコードをソートまたはフィルタするか、**System Viewer** ユーティリティ (コレクションの場合は設定ユーティリティ) を閉じて、再び開く必要があります。

ログをロードするときにロードするレコードがある場合は、表示するレコードがあります というメッセージが表示されます。すべてのレコードがロードされた場合は、次のメッセージが表示されます。

There are no more records to be displayed.

4. (オプション) システムから新しい **Lifecycle Controller** ログを取得するには、**Refresh** (更新) をクリックします。
5. (オプション) 大量のログをロードする場合は、**Pause** (一時停止) をクリックしてログファイルのロードを一時的に停止できます。この段階で、表示するレコード数をドロップダウンリストから選択して変更できます。
6. **Resume** (再開) をクリックし、ログのロードを再開します。
7. **Export to CSV** (CSV にエクスポート) をクリックして、特定の場所でファイルを CSV 形式で保存します。このオプションでは、グリッドに表示されたログファイルだけがエクスポートされます。グリッドでデータをフィルタした場合は、フィルタされたデータだけがエクスポートされます。

最新のメッセージレジストリのダウンロードおよびアップデート

メッセージレジストリのダウンロードおよび展開の前に、**System Viewer** ユーティリティ、**Config** ユーティリティ、および **Task Viewer** などのすべての **Dell Lifecycle Controller Integration** ユーティリティを閉じることをお勧めします。

メッセージレジストリには、**Work notes** (作業メモ) (例: WRK001) のタイプまたは **Other** (その他) のカテゴリのユーザー定義ログの詳細は含まれません。

ConfigMgr 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** をインストールしたシステムの最新 **12G** メッセージレジストリをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. www.delltechcenter.com/LC に移動します。
2. **Lifecycle Controller** ページで、**Attribute Registries and Event/Error Reference** (属性レジストリおよびイベント/エラーリファレンス) リンクをクリックします。
3. **Dell Event/ Error Message Reference** (Dell イベント/エラーメッセージリファレンス) セクションで、**English (2.1)** (英語 (2.1)) をクリックします。
4. **Dell Event/ Error Message Reference 2.1** (Dell イベント/エラーメッセージリファレンス 2.1) ダウンロードリンクをクリックします。
5. **PLC_emsgs_en_2.1.zip** ファイルを空のフォルダに解凍します。
6. 解凍したフォルダのすべてのファイルとフォルダを次のフォルダにコピーします。 **C:\Program Files\Microsoft Configuration Manager\AdminUI\XmlStorage\Extensions\DLPlugin\emsgs_en**
7. メッセージレジストリをアップデートする場合は、新しいファイルとフォルダを解凍してコピーし、**emsgs_en** フォルダにあるファイルとフォルダを上書きするようにしてください。



メモ: 最新の **11G** メッセージレジストリをダウンロードするには、en.community.dell.com/techcenter/extras/m/white_papers/20414440/download.aspx に移動し、手順 5~7 に従います。

システムのハードウェアインベントリの表示

System Viewer ユーティリティを使用して、選択したシステムのハードウェアインベントリの詳細を表示することができます。

システムのハードウェアインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

System Viewer ユーティリティで、**Hardware Inventory**（ハードウェアインベントリ）を選択します。

System Viewer ユーティリティの右ペインに、次の詳細情報が表示されます。

- **Hardware Component**（ハードウェアコンポーネント） — ハードウェアコンポーネントの名前を示します。
- **Properties**（プロパティ） — ハードウェアコンポーネントの属性を示します。
- **Value**（値） — ハードウェアコンポーネントの各属性の値を示します。

 **メモ:** PowerEdge 11G システムでは、**Slot Length**（スロット長）および **Slot Type**（スロットタイプ）フィールドに、**Unknown**（不明）ではなく **Not Applicable**（該当なし）と表示される場合があります。

システムのプラットフォーム復元

このオプションを **System Viewer** ユーティリティで使用する、次の機能を実行することができます。

- システムプロファイルのエクスポート。詳細については、「[システムプロファイルのエクスポート](#)」を参照してください。
- システムプロファイルのインポート。詳細については、「[システムプロファイルのインポート](#)」を参照してください。
- プロファイルの管理。
- システムの部品交換プロパティの設定。詳細については、「[システムの部品交換プロパティの設定](#)」を参照してください。

システムプロファイルのエクスポートまたはインポートの前提条件

ファームウェアを次のバージョンにアップデートする必要があります。

- ブレードシステム用 **Integrated Dell Remote Access Controller** ファームウェアをバージョン **3.30** 以降にアップデート。
- ラックおよびタワーシステム用 **Integrated Dell Remote Access Controller** ファームウェアをバージョン **1.80** 以降にアップデート。
- **Lifecycle Controller** ファームウェアをバージョン **1.5** 以降にアップデート。

ファームウェアバージョンのアップデートの詳細については、「[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)」を参照してください。

システムプロファイルのエクスポート

ファームウェアと設定のバックアップを作成し、**Integrated Dell Remote Access Controller vFlash** カードまたはネットワーク共有へエクスポートすることができます。この機能により、以下のものがバックアップされます。

- **BIOS**、**LOM**、ストレージコントローラ（**RAID** レベル、仮想ディスク、およびコントローラ属性）などのハードウェアおよびファームウェアインベントリ。
- サービスタグやシステムタイプなどのシステム情報。
- **Lifecycle Controller** ファームウェアイメージ、システム設定、**Integrated Dell Remote Access Controller** ファームウェアおよび設定。

システムプロファイルをエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）を選択します。

ユーティリティは、PowerEdge 11G サーバーの場合にシステムの Lifecycle Controller 上の Dell vFlash SD カードの有効なライセンスをチェックし、PowerEdge 12G サーバーの場合にエンタープライズライセンスとファームウェアバージョンをチェックします。有効なライセンスが存在する場合は、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面が表示されます。

 **メモ:** この機能は、Lifecycle Controller バージョン 1.5 以降でのみ利用できます。

2. **Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面で、**Export Server Profile**（サーバープロファイルのエクスポート）オプションを選択し、**Next**（次へ）をクリックします。vFlash メディアまたは共有の場所を選択するオプションが表示されます。
3. 次のオプションのいずれかを選択します。

- **vFlash media**（vFlash メディア）：Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カードにバックアップします。
- **Network share**（ネットワーク共有）：ネットワークの共有の場所にバックアップします。このオプションを選択した場合は、次の情報を指定する必要があります。
 - **Existing share**（既存の共有）：初めてバックアップを作成する場合は、共有の場所を指定します。この情報は以降のバックアップのためにキャッシュされ、ドロップダウンボックスから既存の場所を選択できます。
 - **User name**（ユーザー名）：共有の場所にアクセスするユーザー名を指定します。ユーザー名は、ドメイン\<ユーザー名>という形式で指定する必要があります。この情報も最初のバックアップ後にキャッシュされます。以降のバックアップでは同じ名前を使用できます。
 - **Password**（パスワード）：共有の場所にアクセスするためのパスワードを指定し、確認のためにそのパスワードを再入力します。

 **メモ:** 指定する共有の場所が書き込み可能であることと、Lifecycle Controller がバックアップファイルを保存するのに十分なディスク容量があることを確認してください。

4. バックアップファイルのパスフレーズを入力します。これは、バックアップファイルの暗号化部分をロックするために使用されます。バックアップ操作を正常に行うには、バックアップファイルのパスフレーズを以下のような特定の形式にする必要があります。

- パスフレーズには、最低 8 文字が含まれること。
 - パスフレーズには、最低 1 つの大文字、最低 1 つの小文字、最低 1 つの特殊文字、および最低 1 つの数字の組み合わせが含まれること。
- エクスポートファイルの場所がネットワーク共有の場合は、バックアップファイルにはプレフィックスを指定する必要があります。このプレフィックスは、システムまたはコレクションで一意である必要があります。

バックアップファイルには、システムのホスト名が追加され、<プレフィックス><ホスト名>という形式で保存されます。たとえば、指定したプレフィックスが ABC 123 であり、システムのホスト名が ABCDEFG である場合、バックアップファイルは ABC 123-ABCDEFG として保存されます。

View previous backup files（以前のバックアップファイルの表示）リンクをクリックして、以前作成したバックアップファイルのプレフィックスを表示します。

 **メモ:** 以前のバックアップファイルと同じファイル名を指定した場合は、ユーティリティによって、既存のファイルを上書きしないようにするために別のファイル名を指定することを求めるプロンプトが表示されます。同じ共有の場所に対してシステムレベルおよびコレクションレベルで同じファイル名プレフィックスが提供された場合、ファイルはプロンプトなしで上書きされます。

5. **次へ**をクリックします。
概要画面が表示されます。
6. **Finish**（終了）をクリックして、バックアッププロセスを Task Viewer に送信します。

メッセージ **Task submission complete.** が表示されます。 [Task Viewer](#) を起動してタスクのステータスを表示できます。

システムプロファイルのインポート

この機能を使用すると、システムのファームウェアおよび設定のバックアップをインポートし、バックアップの取得元と同じシステムに復元できます。

この機能は、以前にシステムプロファイルのバックアップイメージを取得したことがある場合にのみ使用可能です。

 **メモ:** システムのマザーボードを交換する場合は、ハードウェアを同じ場所に再び取り付けるようにしてください。たとえば、NIC PCI カードは、バックアップ中に使用したのと同じ PCI スロットに取り付けます。

オプションで、現在の仮想ディスクの設定を削除して、バックアップイメージファイルから設定を復元することもできます。

システムプロファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Platform Restore (プラットフォームの復元)** を選択します。
Platform Restore (プラットフォームの復元) 画面が表示されます。
 2. **Platform Restore (プラットフォームの復元)** 画面で、**Import Server Profile (サーバープロファイルのインポート)** オプションを選択し、**Next (次へ)** をクリックします。vFlash メディアまたは共有の場所を選択するオプションが表示されます。
 3. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **vFlash media (vFlash メディア)** : Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カードからバックアップイメージを復元します。
 - **Network share (ネットワーク共有)** : ネットワークの共有の場所からバックアップイメージを復元します。このオプションを選択した場合は、次の情報を指定する必要があります。
 - **Existing share (既存の共有)** : バックアップイメージを保存した共有の場所を指定します。このドロップダウンリストには、以前にシステムまたはコレクションのバックアップファイルを作成した共有のリストが含まれます。
 - **User name (ユーザー名)** : 共有の場所にアクセスするユーザー名を指定します。ユーザー名はドメイン\<ユーザー名> の形式で指定する必要があります。
 - **Password (パスワード)** : 共有の場所にアクセスするためのパスワードを入力し、確認のためにそのパスワードを再入力します。
 4. **Next (次へ)** をクリックします。バックアップ中に指定したバックアップファイルのパスフレーズを入力します。
 5. **Next (次へ)** をクリックします。バックアップファイルをインポートするときに、現在の RAID コントローラ設定を保持するか、バックアップ済み設定をバックアップファイルから復元するかを選択できます。
 - **Preserve (保持)** : 既存の RAID コントローラ設定を保持します。
 - **Delete (削除)** : 既存の RAID コントローラ設定を削除し、バックアップファイルから設定をインポートします。
-  **メモ:** この操作では、バックアップ時の仮想ディスクの内容（たとえば、オペレーティングシステム）は復元されず、空の仮想ディスクの作成と属性の設定のみが行われます。
6. **次へ** をクリックします。
概要画面が表示されます。
 7. **Finish (終了)** をクリックして、バックアップファイルのインポートを開始し、タスクを **Task Viewer** に送信します。
Task Viewer を起動して、タスクのステータスを表示することができます。

システムの部品交換プロパティの設定

部品交換機能を使用すると、システム内で新たに交換されたコンポーネントのファームウェアまたは設定、あるいはその両方を自動的にアップデートし、元の部品のもので一致させることができます。新たに交換されるコンポーネントは、PowerEdge RAID コントローラ、NIC、電源装置などです。この機能は、Lifecycle Controller ではデフォルトで無効になり、必要に応じて Dell Lifecycle Controller Integration を使用して有効にすることができます。これはライセンスが付与された機能であり、Dell vFlash SD カードを必要とします。

システムの部品交換プロパティを設定するには、**System Viewer** ユーティリティを使用します。

部品交換プロパティを設定するには、次の手順を実行します。

1. **System Viewer** ユーティリティで、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）を選択します。
ユーティリティは、PowerEdge 11G サーバーの場合にシステムの Lifecycle Controller 上の Dell vFlash SD カードの有効なライセンスをチェックし、PowerEdge 12G サーバーの場合にエンタープライズライセンスをチェックします。有効なライセンスが存在する場合は、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面が表示されます。
2. **Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面で、**Configure Part Replacement**（部品交換の設定 オプション）を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
部品交換属性が表示されます。
3. 次の表に示されたプロパティのオプションを選択します。

表 7. プロパティとオプション

プロパティ	オプション
起動時のシステムインベントリの収集 (CSIOR)	• Disabled（無効化）：交換された部品の CSIOR を無効にします。 • Enable（有効化）：交換された部品の CSIOR を有効にします。 • Do Not Change（変更しない）：デフォルト設定をそのまま維持します。
部品ファームウェアアップデート	• Disabled（無効化）：交換された部品のファームウェアアップデートを無効にします。 • Allow version upgrade only（バージョンアップグレードのみ許可）：新しい部品のファームウェアバージョンが元の部品より古い場合に、交換部品に対してファームウェアアップデートを行います。 • Match firmware of replaced part（交換部品のファームウェアを一致させる）：交換部品のファームウェアを元の部品のバージョンにアップデートします。 • Do Not Change（変更しない）：デフォルトの設定を保持します。
部品設定のアップデート	• Disabled（無効化）：現在の設定を交換部品に適用する操作を無効にします。 • Apply always（常に適用）：現在の設定を交換部品に適用します。 • Apply only if firmware matches（ファームウェアが一致する場合のみ適用）：現在のファームウェアが交換部品のファームウェアと一致する場合のみ、現在の設定を適用します。 • Do Not Change（変更しない）：デフォルト設定をそのまま維持します。

4. 必要なオプションを選択した後、**Finish**（終了）をクリックします。
次のメッセージが表示されます。Task submission complete.
タスクが **Task Viewer** に送信されます。**Task Viewer** を起動してタスクのステータスを表示できます。このタスクでは、部品交換設定でシステムの **Lifecycle Controller** が設定されます。この設定は、システムの任意の部品を交換したときに有効になります。
部品交換属性をアップデートした場合は、アップデートがすぐに反映されないことがあります。数分待って、アップデートが反映されているかどうかを確認します。

トラブルシューティング

本章では、問題と問題のトラブルシューティング手順を示します。

IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

インストール中に、Internet Information Services (IIS) 用 Dell プロビジョニングウェブサービスが自動的に設定されます。

この項では、IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを手動で設定する方法について説明します。

IIS 7.0 または IIS 7.5 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

IIS 7.0 または IIS 7.5 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを設定するには、次の手順を実行します。

1. Dell Server Deployment Pack がインストールされている ConfigMgr コンソールで、**Dell_Lifecycle_Controller_Integration_2.2.exe** を起動し、デフォルト値を選択します。**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) という名前の新しい仮想ウェブサイトが作成されます。
2. **Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) という名前の新しいアプリケーションプールを作成し、ウェブサイトに割り当てます。
3. **Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) で次の手順を実行します。
 - **IIS Manager** (IIS マネージャ) で **Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) を右クリックし、**Properties** (プロパティ) を選択します。
 - **Home Directory** (ホームディレクトリ) タブをクリックします。
 - **Application Pool** (アプリケーションプール) 下で、**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) を選択します。
4. ウェブサイトで、デフォルトドキュメントを **handshake.asmx** に設定し、その他のデフォルトドキュメントをすべて削除します。
5. 証明書 MMC プラグインを使用して、**PS2.pfx** 証明書をシステムの **Personal** (個人 ストア) にインストールします。
6. **RootCA.pem** をシステムの **Trusted Root Certificate Authorities** (信頼できるルート認証局ストア) にインストールします。
7. **ProvisioningCTL.stl Certificate Trust List** (証明書信頼リスト) ファイルを **Intermediate Certificate Authorities** (中間証明書認証局) にインポートします。
8. インポートされた **Certificate Trust List** (証明書信頼リスト) を適用する SSL 証明書設定を作成します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを貼り付けます。

```
netsh http add sslcert ipport=0.0.0.0:4433 appid={6cb73250-820b-11de-8a39-0800200c9a66} certstorename=MY certhash=fbcc14993919d2cdd64cfed68579112c91c05027 sslctlstorename=CA sslctldentifier="ProvisioningCTL"
```
9. ウェブサイトに SSL およびクライアント証明書を適用する場合は、次の手順を実行します。
 - ポートを 4433 に設定し、**DellProvisioningServer** 証明書を使用する SSL バインディングを追加します。証明書が別のプログラムに割り当てられることを示す警告が表示されます。
 - **OK** をクリックします。
 - ポート 4431 の HTTP バインディングを削除します。

- 必要な SSL オプションを選択します。
- 必要なクライアント証明書オプションを選択します。
- **適用** をクリックします。

Dell 自動検出ネットワークセットアップ仕様

自動検出のエラーメッセージ、説明、および対応処置については、delltechcenter.com で入手可能な『Dell Auto-Discovery Network Setup Specification』（Dell 自動検出ネットワークセットアップ仕様）を参照してください。

アップグレードまたは修正の問題

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration 1.2 以降のバージョンをインストールした後に Dell Server Deployment Pack をアップグレードまたは修正した場合は、次の手順を実行します。

1. **CustomReboot.vbs** を `[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC\` から `[ConfigMgrRoot]\OSD\Lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\CustomReboot\` にコピーして、コピー先フォルダ内のファイルを上書きします。
2. **DellPowerEdgeDeployment.xml** を `[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC\` から `[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\` にコピーして、コピー先フォルダ内のファイルを上書きします。

Lifecycle Controller ログの表示およびエクスポートのトラブルシューティング

単体システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを表示する場合は、グリッドビューで **No. Column** (列数) に **-1**、**Category** (カテゴリ)、**Description** (説明)、および **ID** 列に **Not Available** (使用できません) と表示されることがあります。

次の原因と対応処置が考えられます。

- Lifecycle Controller が他のタスクまたはプロセスを実行しているため、システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを取得できません。
対応処置: しばらく待ってから、システムまたはコレクションのログの取得または更新を再試行して、ログを再度表示します。
- Lifecycle Controller が特定の CIFS 共有にアクセスできません。
対応処置: CIFS 共有のパーミッションをチェックし、この共有が Lifecycle Controller のターゲットシステムからアクセス可能であることを確認します。
- サイトサーバーが特定の CIFS 共有にアクセスできません。
対応処置: CIFS 共有のパーミッションをチェックし、この共有がサイトサーバーからアクセス可能であることを確認します。
- 特定の CIFS 共有が読み取り専用共有になっています。
対応処置: 読み取りと書き込みの両方を有効にして、共有の場所の詳細を提供します。
- エクスポートされた .XML ファイルの形式が不適切です。
対応処置: 詳細については、dell.com/support/manuals で入手可能な『Dell Lifecycle Controller 2 Version 1.00.00 User's Guide』（Dell Lifecycle Controller 2 バージョン 1.00.00 ユーザーズガイド）を参照してください。
- ターゲットシステムを Lifecycle Controller バージョン 1.3 または 1.4 から Lifecycle Controller バージョン 1.5 にアップグレードします。
対応処置: Lifecycle Controller ログをエクスポートし、Unified Server Configurator を使って Lifecycle Controller ワイプを実行し、Unified Server Configurator を再インストールして Lifecycle Controller ログを再生成します。

問題と解決策

問題 1

問題: 共有ネットワークモードで設定された **Integrated Dell Remote Access Controller** 搭載のターゲットシステムにオペレーティングシステムを導入するときに、**Windows PE** 環境の起動がネットワークドライバで失敗し、タスクシーケンスに達する前にシステムが再起動する場合があります。

対応処置: これは、ネットワークで IP アドレスの割り当てが遅いため発生します。この問題を回避するには、ネットワークスイッチで **Spanning Tree** (スパニングツリー) と **Fast Link** (高速リンク) を有効にします。

問題 2

問題: システムの **Lifecycle Controller** が使用中の場合に、そのシステムが検出されません。

対応処置: システムがコレクションに表示されない場合は、ログファイルに **Lifecycle Controller in use.** というエラーメッセージがあるか確認します。このエラーメッセージがあれば、次の手順を実行します。

1. システムがパワーオンセルフテスト (POST) の状態でないことを確認します。システムは、電源を投入してからメディアでオペレーティングシステムを起動するまで **POST** の状態になります。
2. システムの電源を切り、10 分待ってからコレクションに表示されることを確認します。

問題 3

問題: ソースおよび宛先フォルダ用のローカルフォルダの場所を指定しない場合に、**Lifecycle Controller 起動メディアの作成** オプションが失敗することがあります。

対応処置: 使用されるソースパスおよび宛先パスがローカルパスであることを確認します (たとえば、**C:\<フォルダ名>**)。

問題 4

問題: **Integrated Dell Remote Access Controller** のバージョンがいずれかのターゲットシステムのサポート済みバージョンより古い場合に、オペレーティングシステム導入ワークフローで **Boot to vFlash** (vFlash から起動) オプションが失敗することがあります。

対応処置: ラックとタワーサーバーで、ファームウェアが **Integrated Dell Remote Access Controller** バージョン 1.3 以降であることを確認します。ブレードサーバーで、**Integrated Dell Remote Access Controller** のバージョンが 2.2 以降であることを確認します。

問題 5

問題: **設定ユーティリティの起動** を使用してオペレーティングシステムを導入中、タスクシーケンスのアドバタイズメントが画面に表示されません。

対応処置: 導入するコレクションに対してアドバタイズするようにしてください。親コレクションに対するアドバタイズメントは子コレクションには適用されません。

問題 6

問題: **ConfigMgr SP1 R2** から **Windows Automated Installation Kit (Windows AIK) 1.1** を使って **Microsoft Windows Server 2008 R2** を導入する際に、次のエラーメッセージが表示されます。

Operation failed with 0X80070002. The system cannot find the file specified.

対応処置: この問題は、Microsoft Windows Server 2008 R 2 を導入するために Windows AIK 1.X で作成された Windows PE 2.X ベースの起動イメージを使用する場合に発生します。Microsoft Windows Server 2008 R 2 を導入するタスクシーケンスで、Windows AIK 2.X 以降で作成された Windows PE 3.0 以降ベースの起動イメージが使用されていることを確認します。詳細については、Microsoft TechNet サイト technet.microsoft.com を参照してください。

問題 7

問題: ターゲットシステムの BIOS のバージョンが古く、特定の 방법이サポートされない場合、DLCTaskManager.log ファイルに次のエラーメッセージが表示されます。

Installed BIOS version does not support this method.

対応処置: BIOS を、サポートされている最新のバージョンにアップデートしてください。

問題 8

問題: ターゲットシステムの Lifecycle Controller が他のプロセスにロックされた場合、DLCTaskManager.log ファイルに次のエラーメッセージが表示されます。

Lifecycle Controller is being used by another process.

対応処置: システムの Integrated Dell Remote Access Controller が POST 状態でないことを確認します。

問題 9

問題: ターゲットシステムのサービスタグ名を正しく入力しない場合に、検出およびハンドシェイクが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

[Server Name] - Handshake - getCredentialsInternal():[Server Name]: NOT
AUTHORIZED: No credentials returned

対応処置: サービスタグ名では、大文字と小文字を区別します。import.exe ユーティリティを使ってインポートされたサービスタグ名が Integrated Dell Remote Access Controller GUI のサービスタグ名に一致することを確認します。

問題 10

問題: Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムの導入時に、**Apply Drivers from Lifecycle Controller** (Lifecycle Controller からドライバを適用) オプションを選択すると、ブルースクリーンが表示されたり、導入が失敗したりします。

解決方法: この問題を解決するには、次の手順を実行してください。

1. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** をクリックします。
Task Sequence Editor (タスクシーケンスエディタ) ウィンドウが表示されます。
2. **Add (追加)** → **Drivers (ドライバ)** → **Apply Driver Package (ドライバパッケージの適用)** を選択します。
3. **mass storage driver (マスタストレージドライバ)** オプションを選択します。
4. 適用可能な **SAS** または **PERC** ドライバを選択します。
5. **SAS** または **PERC** ドライバのモデルを選択します。
6. タスクシーケンスを保存し、オペレーティングシステムを再導入します。

問題 11

問題: 検出とハンドシェイク中、DPS.log に空の **サイトコード:** が表示され、その後に暗号化例外が表示されます。

対応処置: この問題は、**ConfigMgr** アクセス用に入力されたアカウントに **WMI** を問い合わせるサイトコードを取得するパーミッションがない場合や、サーバーがサイトサーバーまたはドメインコントローラに対する認証を行えない場合に発生します。**Dell Provisioning Server** のユーザーパーミッションを確認し、**WBEMTest** 接続を実行してアカウントを検証し、システムをリセットして再検出します。

問題 12

問題: 検出とハンドシェイク中に、**createDellCollections() Either Connection Mgr param is NULL or Collection not yet created** というメッセージが **DPS.log** に多数表示されます。

対応処置: この問題は、**ConfigMgr** アクセス用に入力されたアカウントにコレクションを作成する権限がない場合に発生します。設定権限の詳細については、「[Dell 自動検出ネットワークセットアップ仕様](#)」を参照してください。

問題 13

問題: **ConfigMgr** で既存のアカウントからアカウントがクローンされた場合に、アカウントが **SMS_Admins** グループに自動的に追加されません。

対応処置: このグループにそのアカウントが存在することを確認します。また、**Dell Provisioning Server** のユーザー権限を確認し、**WBEMTest** 接続を実行してアカウントを検証します。さらに、システムをリセットして、再検出します。

問題 14

問題: **User Account Controller (UAC)** オプションを有効にした状態で **Microsoft Windows 2008 32 ビット SP2** に **ConfigMgr** 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** バージョン 1.3 をインストール中にインストールが失敗します。

対応処置: **UAC** を無効にして、**ConfigMgr** 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** バージョン 1.3 を再インストールします。または、コマンドラインインタフェース (CLI) を使用して、**ConfigMgr** 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** をインストールします。この作業を行う前に、インストーラを右クリックし、**Properties** (プロパティ) を選択し、**Compatibility** (互換性) タブをクリックして、**Run as Administrator** (管理者として実行) オプションを選択します。

問題 15

問題: **ConfigMgr** 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** をアンインストールして再インストールした後に、**Advertise** (アドバタイズ) オプションが既存のタスクシーケンスに表示されません。

対応処置: 編集のためにタスクシーケンスを開き、**Apply** (適用) オプションを再度有効にして、**OK** をクリックします。**Advertise** (アドバタイズ) オプションが再度表示されます。

Apply (適用) オプションを再度有効にするには、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを右クリックして、**Edit** (編集) を選択します。
2. **Restart in Windows PE** (Windows PE で再起動) を選択します。**Description** (説明) セクションで、任意の文字を入力して削除し、変更が保存されないようにします。
3. **OK** をクリックします。
これで **Apply** (適用) プションが再度有効になります。

問題 16

問題: **System Viewer** ユーティリティに最新の RAID 設定が表示されません。

対応処置: **System Viewer** ユーティリティを使用してシステムの RAID 設定を表示しているときに、情報がキャッシュされます。同じシステムの RAID 設定をアップデートする場合は、**System Viewer** ユーティリティを閉じて、再度開き、アップデートされた RAID 設定を表示する必要があります。

問題 17

問題: モノリシックシステムでは CIFS 共有へのパスでホスト名を使用できるのに、モジュラーシステムではホスト名を使用できません。

対応処置: モジュラーシステムの場合は、CIFS 共有の IP アドレスを指定する必要があります。

問題 18

問題: システムを最新のファームウェアにアップデートするときに、WAN 経由で Dell Update Packages (DUPS) をダウンロードする時間が 50 分以上かかる場合に、アップデートタスクが失敗することがあります。

対応処置: この問題が発生した場合は、アップデートを含むレポジトリを、アップデートを行うシステムのローカルネットワークにコピーする必要があります。

問題 19

問題: ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 1.0 または 1.1 がインストールされているシステムを検出し、バージョン 1.2 または 1.3 へのアップグレード後にファームウェアをアップデートしたとき、OS の導入中にホスト名を変更した場合に、システムを再検出する必要があります。

対応処置: ターゲットシステムの Lifecycle Controller をバージョン 1.4 以降にアップグレードし、ターゲットシステム上の Integrated Dell Remote Access Controller を、モノリシックシステムの場合はバージョン 1.5 以降に、モジュラーシステムの場合はバージョン 3.02 以降にアップグレードします。

問題 20

問題: システムまたはコレクションのバックアップイメージをインポートする場合に無効なバックアップファイルパスフレーズを指定すると、Task Viewer に次のエラーが表示されます。

Backup File passphrase is invalid. Host system has shut down due to invalid passphrase. Specify a valid passphrase and rerun the task.

対応処置: この問題を解決するには、バックアップイメージをインポートし、タスクを Task Viewer に再送信してワークフローを再び開始します。詳細については、「[システムプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

問題 21

問題: コレクションのバックアップまたは復元操作が実行中の場合は、コレクションの Lifecycle Controller ログを表示できません。この原因は、Lifecycle Controller がバックアップまたは復元操作の実行でビジー状態にあることです。

対応処置: Lifecycle Controller ログを表示するには、バックアップまたは復元タスクが完了してから、Lifecycle Controller ログ画面で更新をクリックします。

問題 22

問題: Lifecycle Controller ログを連続的に追加するか、1 つまたは複数のコンポーネントが連続的にログエントリを作成する場合に、コレクションの Lifecycle Controller ログを表示できません。

対応処置: Lifecycle Controller ログを表示するには、しばらく待ってから、Lifecycle Controller ログ画面で **Refresh** (更新) をクリックします。

問題 23

問題: Windows 以外のオペレーティングシステムの導入で、無人オペレーティングシステムメディアの作成に時間がかかります。

対応処置: Windows 以外のオペレーティングシステムの導入中に、Dell Lifecycle Controller Utility は NFS 共有を使用して無人オペレーティングシステムメディアを作成します。NFS 共有の応答時間が長い場合は、この手順にかかる時間がさらに長くなります。Red Hat Linux オペレーティングシステムを実行しているサーバーには NFSv3 を使用することが推奨されます。

Dell Connections License Manager 状態メッセージ

自動検出中、各サーバーの Configuration Manager でライセンス関連情報がログに記録されます。

アラートメッセージ	アラート状態	原因	解決策
ライセンスが必要な形式ではありません。	警告	ライセンスファイルに十分な容量がありません。 - ライセンスファイルの資格 ID が正しくありません。 - ライセンスが製品に正しく割り当てられていません。	ライセンスが Dell ライセンスポータルで発行された場合は、カスタマーサポートに問い合わせてライセンスの交換をご要請ください。
ライセンスデータが Dell Connections License Manager 内にありません。デフォルトですべてのシステムは、管理対象外 Dell Lifecycle Controller コレクションにインポートされます。	警告	License Manager に DLCI 用の有効なライセンスファイルがありません。	Dell ライセンスポータルからライセンスファイルを取得し、License Manager にインポートします。
Dell Connections License Manager で使用可能なライセンスが不十分です。デフォルトでは、すべてのシステムは管理対象外 Dell Lifecycle Controller コレクションにインポートされます。	警告	Dell Connections License Manager で使用可能なライセンスが不十分です。	Dell ライセンスから追加ライセンスを取得してください。
Dell Connections License Manager 用の特権が不十分です。デフォルトでは、すべてのシステムは管理対象外 Dell Lifecycle Controller コレクションにインポートされます。	警告	Dell Connections License Manager との通信が設定されたユーザーに要求された操作を行う特権がありません。	Dell Connections License Manager 設定 ユーティリティを起動し、ユーザーに必要な特権を設定します。

アラートメッセージ	アラート状態	原因	解決策
利用可能な Dell Connections License の数より多いシステムが選択されました。リストの最上部からシステムにライセンスが割り当てられます。ライセンスが割り当てられなかったシステムは、管理対象外 Dell Lifecycle Controller コレクションにインポートされます。	警告	Dell サーバーのインポートプロセス中に選択されたシステムの数が増え、Dell Connections License Manager で使用できるライセンスの数よりも多くなっています。	Dell ライセンスから追加ライセンスを取得してください。
Dell Connections License Manager の詳細が設定されていません。	警告	Dell Connections License Manager の詳細が設定されていません。	Connections License Manager 設定ユーティリティを起動し、DLCI 用の Connections License Manager を設定します。
Dell Connections License Manager が設定されていないか、アクセスできません。デフォルトでは、すべてのシステムは管理対象外 Dell Lifecycle Controller コレクションにインポートされます。	警告	Dell Connections License Manager の詳細が設定されていません。 Connections License Manager にアクセスできません。	Dell Connections License Manager 設定ユーティリティを起動し、DLCI 用の Dell Connections License Manager を設定します。 Dell Connections License Manager への接続が機能していることを確認してください。
現在のライセンス使用が合計許容数を超過しました。	警告	Dell Connections License Manager のライセンスはすべて使用されています。追加ライセンスが必要です。	Dell ライセンスから追加ライセンスを取得してください。
Dell Connections License Manager へのアクセスが拒否されました。デフォルトですべてのシステムは、管理対象外 Dell Lifecycle Controller コレクションにインポートされます。	警告	Connections License Manager と通信するよう設定されたユーザーがアクセスできません。	Dell Connections License Manager 設定ユーティリティを起動し、ユーザーに必要な特権を設定します。
サーバーには、この機能を使用するために必要な Dell Connections License がありません。	警告	Dell サーバーが Dell Connections License Manager からライセンスを取得していません。	ライセンスの取得方法： - ライセンスの取得ユーティリティ。 - Dell サーバーの再インポート。 - Dell サーバーの再検出。

アラートメッセージ	アラート状態	原因	解決策
システムのインポートに失敗しました。割り当てられたいずれかのライセンスを解放してください。	警告	Dell サーバーをインポートする操作が失敗し、割り当てられたすべてのライセンスが解放されました。	Dell サーバーのインポートまたは検出を再度試みます。
システムを管理対象外コレクションに追加します。	警告	Dell Connections License Manager からのライセンス取得が失敗しました。	ライセンスの取得方法： • ライセンスの取得ユーティリティ。 • Dell サーバーの再インポート。 • Dell サーバーの再検出。

関連文書およびリソース

ConfigMgr のインストール、特性、機能などの詳細については、Microsoft TechNet サイト (technet.microsoft.com) を参照してください。

本ガイド以外にも、dell.com/support/manuals で次のガイドを入手できます。マニュアル ページで **Software and Security** (ソフトウェアおよびセキュリティ) → **System Management** (システム管理) をクリックします。右側の適切な製品リンクをクリックして、文書にアクセスします。

- *Dell Server Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager User's Guide* (Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド)
- *Dell Life Cycle Controller User's Guide* (Dell Life Cycle Controller ユーザーズガイド)
- *Integrated Dell Remote Access Controller 6 User's Guide* (Integrated Dell Remote Access Controller 6 ユーザーズガイド)

delltechcenter.com で以下のホワイトペーパーを入手できます。Dell TechCenter Wiki ホームページで、OpenManage システム管理 → LifeCycle Controller をクリックします。

- *Dell Lifecycle Controller Remote Services Overview* (Dell Lifecycle Controller リモートサービスの概要)
- *Dell Lifecycle Controller Web Services Interface Guideline* (Dell Lifecycle Controller ウェブサービスインタフェースのガイドライン)
- *Dell Auto-Discovery Network Setup Specification* (Dell 自動検出ネットワークセットアップ仕様)

テクニカルサポートを受けるには

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration に関するサポートおよび情報については、dell.com/support を参照してください。

米国にお住まいの方は、800-WWW-DELL (800-999-3355) までお電話ください。

 **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

テクニカルサポートについては、dell.com/contactus にアクセスしてください。

また、デルエンタープライズ向けトレーニングおよび資格認証については、www.dell.com/training にアクセスしてください。